

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成22年6月30日

【事業年度】 第83期(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

【会社名】 川崎設備工業株式会社

【英訳名】 KAWASAKI SETSUBI KOGYO CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 木村 嗣郎

【本店の所在の場所】 名古屋市中区錦二丁目18番5号

【電話番号】 052(221)7700(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 坂部 彰一

【最寄りの連絡場所】 名古屋市中区錦二丁目18番5号

【電話番号】 052(221)7700(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 坂部 彰一

【縦覧に供する場所】 川崎設備工業株式会社東京支店
(東京都渋谷区千駄ヶ谷四丁目28番4号)

川崎設備工業株式会社岐阜支店
(岐阜市若宮町八丁目12番地)

川崎設備工業株式会社大阪支店
(大阪市淀川区西中島四丁目3番24号
サムティ新大阪センタービル5F)

川崎設備工業株式会社神戸支店
(神戸市中央区八幡通三丁目1番14号
サンサポートビル4F)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

提出会社の最近5事業年度に係る主要な経営指標等の推移

| 回次 | 第79期 | 第80期 | 第81期 | 第82期 | 第83期 |
|-------------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 決算年月 | 平成18年3月 | 平成19年3月 | 平成20年3月 | 平成21年3月 | 平成22年3月 |
| 完成工事高 (千円) | 28,426,571 | 21,218,461 | 22,150,264 | 20,560,042 | 16,851,048 |
| 経常利益又は 経常損失 () (千円) | 2,446,908 | 51,204 | 335,273 | 410,773 | 369,148 |
| 当期純利益又は 当期純損失 () (千円) | 2,730,171 | 187,646 | 348,826 | 277,761 | 303,439 |
| 持分法を適用した場合の 投資利益 (千円) | | | | | |
| 資本金 (千円) | 1,581,000 | 1,581,000 | 1,581,000 | 1,581,000 | 1,581,000 |
| 発行済株式総数 (株) | 12,000,000 | 12,000,000 | 12,000,000 | 12,000,000 | 12,000,000 |
| 純資産額 (千円) | 2,202,111 | 2,335,384 | 2,587,551 | 2,821,017 | 3,086,011 |
| 総資産額 (千円) | 20,118,877 | 19,203,527 | 15,430,625 | 14,235,421 | 12,608,461 |
| 1株当たり純資産額 (円) | 183.76 | 194.92 | 215.99 | 235.52 | 257.68 |
| 1株当たり配当額 (円) | | | | 3.00 | 3.00 |
| (内1株当たり 中間配当額) (円) | () | () | () | () | () |
| 1株当たり当期純利益 又は当期純損失 () (円) | 227.80 | 15.66 | 29.12 | 23.19 | 25.34 |
| 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円) | | | | | |
| 自己資本比率 (%) | 10.9 | 12.2 | 16.8 | 19.8 | 24.5 |
| 自己資本利益率 (%) | | 8.27 | 14.17 | 10.27 | 10.27 |
| 株価収益率 (倍) | | 8.2 | 3.7 | 3.8 | 3.9 |
| 配当性向 (%) | | | | 12.9 | 11.8 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー (千円) | 1,237,033 | 2,029,446 | 990,731 | 713,098 | 657,298 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー (千円) | 1,035,305 | 341,662 | 135,340 | 116,191 | 75,829 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー (千円) | 1,233,451 | 698,652 | 1,807,145 | 522,657 | 79,659 |
| 現金及び現金同等物 の期末残高 (千円) | 4,546,474 | 2,160,038 | 1,478,964 | 1,785,597 | 1,124,469 |
| 従業員数 (名) | 284 | 269 | 255 | 251 | 246 |

- (注) 1 完成工事高には、消費税等は含まれておりません。
2 持分法を適用した場合の投資利益は、関連会社がないため記載しておりません。
3 従業員数は、就業人員を表示しております。ただし平均臨時雇用者数は、臨時従業員の総数が従業員の100分の10未満であるため記載しておりません。
4 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がありませんので記載しておりません。
5 第79期の自己資本利益率および株価収益率は、当期純損失が計上されているため記載しておりません。
6 当社は、連結財務諸表を作成しておりませんので「連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移」については

記載しておりません。

- 7 純資産額の算定にあたり、平成19年3月期から「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」（企業会計基準第5号）および「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等の適用指針」（企業会計基準適用指針第8号）を適用しております。

2 【沿革】

| 年月 | 事項 |
|----------|---|
| 昭和26年10月 | 株式会社川崎岐阜製作所(現川崎重工業株式会社)は、設備部門を分離独立させ川崎設備工業株式会社を設立 資本金700万円 管工事・電気工事の請負事業を開始 本店を岐阜市若宮町8丁目12番地に設置 |
| 昭和26年11月 | 東京支店を東京都渋谷区に、名古屋支店を名古屋市中区に各々設置 建設業登録 建設大臣登録(管工事業・電気工事業) |
| 昭和34年4月 | 本店を岐阜市より、名古屋市中区花園町(現大須一丁目)に移転 これに伴い旧本店は岐阜支店と改称、名古屋支店を廃止 |
| 昭和42年9月 | 大阪支店を大阪市都島区に設置(営業所からの昇格) |
| 昭和48年8月 | 名古屋支店を名古屋市中区に設置 |
| 昭和48年9月 | 神戸支店を神戸市東灘区に設置(営業所からの昇格) |
| 昭和49年2月 | 建設業法の改正による建設業許可をうける 建設大臣許可(管工事業・電気工事業) |
| 昭和55年2月 | 建設業許可 建設大臣許可(消防施設工事業) |
| 平成3年4月 | 豊田支店を愛知県豊田市に設置(営業所からの昇格) 設備のメンテナンスをおこなう会社として、100%出資により、カワセツ東京サービス株式会社、カワセツ中部サービス株式会社、カワセツ近畿サービス株式会社を設立(平成10年10月3日合併によりカワセツサービス株式会社に商号変更) |
| 平成3年11月 | 岐阜支店の新社屋竣工 |
| 平成5年3月 | 資本金を10億500万円に増資 |
| 平成5年4月 | 東京支店の新社屋竣工 |
| 平成5年7月 | 建設業許可 建設大臣許可(機械器具設置工事業) |
| 平成8年1月 | 名古屋証券取引所市場第二部に上場 資本金を15億8100万円に増資 |
| 平成14年4月 | 中国支店を広島市西区に設置(営業所からの昇格) |
| 平成16年6月 | 神戸支店を神戸市中央区に移転 |
| 平成16年7月 | 大阪支店を大阪市淀川区に移転 |
| 平成17年8月 | 本店を名古屋市中区錦二丁目に移転 |
| 平成20年4月 | 株式会社関電工が当社株式の公開買付により当社の親会社に異動 |

3 【事業の内容】

当社グループは、当社、親会社1社、子会社1社で構成され、空気調和、冷暖房、給排水衛生設備、電気工事業を主に営んでおります。

当グループの事業に係る位置づけは次のとおりであります。

親会社

株式会社関電工は当社の親会社であり、取引先等の設備工事に関して当社と営業・工事施工の連携を行っております。

当社

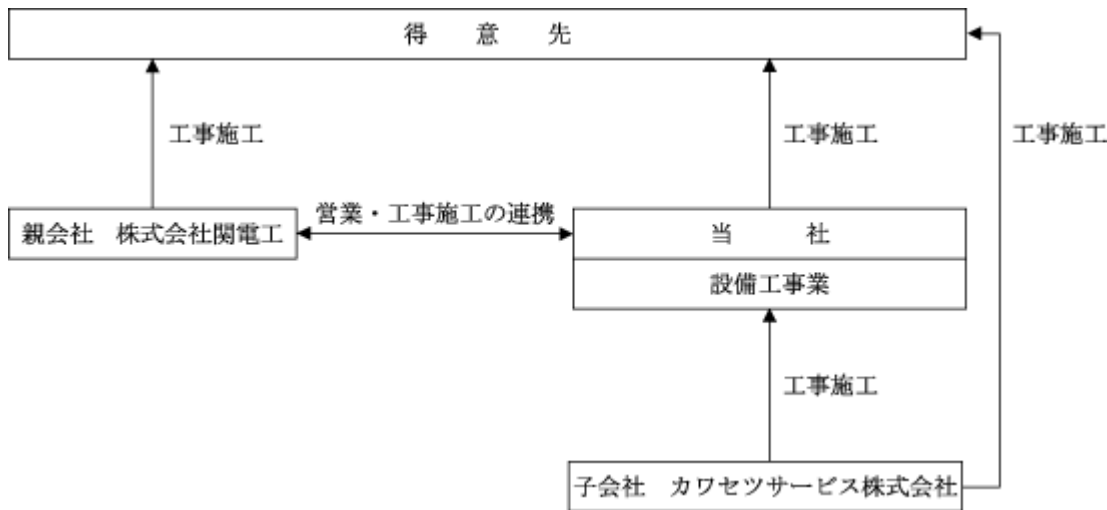
日本全国において空気調和、冷暖房、給排水衛生設備、電気工事等の事業活動を行っております。

子会社

カワセツサービス株式会社は、空調設備、給排水衛生設備等の修理、保守、点検等、当社の補完事業を行っております。

事業の系統図は次のとおりであります。

事業系統図



4 【関係会社の状況】

| 名称 | 住所 | 資本金又は 出資金 (千円) | 主要な事業 の内容 | 議決権の所有 (被所有)割合 | | 関係内容 |
|------------------|-------|----------------------|--------------|-------------------|--------------|--|
| | | | | 所有割合 (%) | 被所有割合 (%) | |
| (親会社) 株式会社関電工 | 東京都港区 | 10,264,000 | 建設業 | | 50.29 | 当社は同社と営業・工事施工の連携を行っております。役員の兼任3名(同社執行役員2名) |

(注) 株式会社関電工は有価証券報告書を提出しております。

5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

(平成22年3月31日現在)

| 従業員数(名) | 平均年齢(歳) | 平均勤続年数(年) | 平均年間給与(円) |
|---------|---------|-----------|-----------|
| 246 | 44.6 | 18.2 | 6,417,030 |

- (注) 1 従業員は就業人員であります。
2 平均年間給与は、賞与および基準外賃金を含んでおります。
3 平均臨時雇用者数は、臨時従業員の総数が従業員の100分の10未満であるため記載しておりません。

(2) 労働組合の状況

- a 名称 川崎設備工業株式会社労働組合
b 上部団体 上部団体には所属しておりません。
c 結成年月日 昭和26年10月29日
d 組合員数 160名(平成22年3月31日現在)
e 労使関係 従業員の労働条件の確立を基本に、健全な労使関係の維持発展を進めており円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

以下、「第2 事業の状況」における各事項については、消費税等抜きの金額で表示しております。

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当事業年度におけるわが国経済は、デフレが進行し企業業績が低迷するなかで、設備投資は減少し雇用環境も悪化するなど、厳しい状況で推移しました。

建設業界におきましては、産業施設をはじめとした設備投資の抑制や価格競争の激化などにより、依然として厳しい経営環境でした。

このような状況のなかで、当社は、安定経営の定着・手持ち工事量の確保等の目標に向け、事業活動を推進してまいりましたが、受注高につきましては、160億32百万円（前期比15.9%減）となりました。完成工事高につきましては、168億51百万円（前期比18.0%減）となりました。次期繰越高は、134億87百万円（前期比5.7%減）となりました。

損益につきましては、経常利益は3億69百万円（前期比10.1%減）となり、当期純利益は3億3百万円（前期比9.2%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前当期純利益の計上や未成工事支出金の減少等がありましたが、売上債権の増加や仕入債務の減少等により、6億57百万円（前年同期は7億13百万円であり、これと比較すると13億70百万円の減少）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の払戻による収入等により、75百万円（前年同期は1億16百万円であり、これと比較すると40百万円の減少）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済等により、79百万円（前年同期は5億22百万円であり、これと比較すると4億42百万円の増加）となりました。

この結果、現金及び現金同等物の当事業年度末残高は、前事業年度比6億61百万円（37.0%）減の11億24百万円となりました。

2 【生産・受注及び販売の状況】

(1) 受注実績

| 区分 | 第82期 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) (千円) | 第83期 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) (千円) |
|--------|---|---|
| 一般ビル工事 | 13,049,949 | 12,275,446 |
| 産業施設工事 | 4,673,738 | 3,055,190 |
| 電気工事 | 1,339,103 | 701,985 |
| 合計 | 19,062,790 | 16,032,622 |

(2) 売上実績

| 区分 | 第82期 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) (千円) | 第83期 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日) (千円) |
|--------|---|---|
| 一般ビル工事 | 12,634,208 | 12,724,066 |
| 産業施設工事 | 6,366,048 | 3,309,116 |
| 電気工事 | 1,559,785 | 817,864 |
| 合計 | 20,560,042 | 16,851,048 |

- (注) 1 当社では建設事業以外は受注活動を行っておりません。
2 当社では生産実績を定義することが困難であるため「生産の状況」は記載しておりません。

(3) 建設業における受注工事高及び施工高の状況

受注工事高、完成工事高、繰越工事高及び施工高

| 期別 | 工事別 | 前期繰越 工事高 (千円) | 当期受注 工事高 (千円) | 計 (千円) | 当期完成 工事高 (千円) | 次期繰越工事高 | | | 当期施工高 (千円) |
|---|------------|---------------------|---------------------|------------|---------------------|---------------|--------------|-----------|---------------|
| | | | | | | 手持工事高 (千円) | うち施工高 (%) | (千円) | |
| 第82期 自平成20年 4月1日 至平成21年 3月31日 | 一般ビル 工事 | 12,530,614 | 13,049,949 | 25,580,563 | 12,634,208 | 12,946,354 | 18.4 | 2,376,143 | 12,008,392 |
| | 産業施設 工事 | 2,855,913 | 4,673,738 | 7,529,651 | 6,366,048 | 1,163,603 | 42.4 | 493,102 | 6,387,772 |
| | 電気工事 | 416,564 | 1,339,103 | 1,755,667 | 1,559,785 | 195,882 | 15.7 | 30,779 | 1,490,505 |
| | 計 | 15,803,091 | 19,062,790 | 34,865,882 | 20,560,042 | 14,305,840 | 20.3 | 2,900,025 | 19,886,670 |
| 第83期 自平成21年 4月1日 至平成22年 3月31日 | 一般ビル 工事 | 12,946,354 | 12,275,446 | 25,221,801 | 12,724,066 | 12,497,734 | 12.7 | 1,592,619 | 11,940,542 |
| | 産業施設 工事 | 1,163,603 | 3,055,190 | 4,218,794 | 3,309,116 | 909,677 | 8.6 | 77,968 | 2,893,982 |
| | 電気工事 | 195,882 | 701,985 | 897,867 | 817,864 | 80,002 | 12.4 | 9,919 | 797,004 |
| | 計 | 14,305,840 | 16,032,622 | 30,338,463 | 16,851,048 | 13,487,414 | 12.5 | 1,680,507 | 15,631,529 |

- (注) 1 前事業年度以前に受注した工事で、契約の変更により請負金額に増減のある場合は、当期受注工事高にその増減額が含まれております。
2 次期繰越工事高の施工高は、支出金により手持工事高の施工高を推定したものであります。
3 当期施工高は、(当期完成工事高 + 次期繰越施工高 - 前期繰越施工高)に一致しております。

受注工事の受注方法別比率

工事の受注方法は特命と競争に大別されます。

| 期別 | 区分 | 特命 (%) | 競争 (%) | 合計 (%) |
|-----------------------------------|--------|--------|--------|--------|
| 第82期 自平成20年4月1日 至平成21年3月31日 | 一般ビル工事 | 50.0 | 50.0 | 100.0 |
| | 産業施設工事 | 86.7 | 13.3 | 100.0 |
| | 電気工事 | 97.7 | 2.3 | 100.0 |
| 第83期 自平成21年4月1日 至平成22年3月31日 | 一般ビル工事 | 44.7 | 55.3 | 100.0 |
| | 産業施設工事 | 97.7 | 2.3 | 100.0 |
| | 電気工事 | 92.6 | 7.4 | 100.0 |

- (注) 百分比は請負金額比で示しております。

完成工事高

| 期別 | 区分 | 官公庁(千円) | 民間(千円) | 合計(千円) |
|-----------------------------------|--------|-----------|------------|------------|
| 第82期 自平成20年4月1日 至平成21年3月31日 | 一般ビル工事 | 4,245,861 | 8,388,346 | 12,634,208 |
| | 産業施設工事 | | 6,366,048 | 6,366,048 |
| | 電気工事 | 109 | 1,559,676 | 1,559,785 |
| | 計 | 4,245,970 | 16,314,071 | 20,560,042 |
| 第83期 自平成21年4月1日 至平成22年3月31日 | 一般ビル工事 | 4,626,933 | 8,097,133 | 12,724,066 |
| | 産業施設工事 | | 3,309,116 | 3,309,116 |
| | 電気工事 | 51,792 | 766,072 | 817,864 |
| | 計 | 4,678,725 | 12,172,322 | 16,851,048 |

- (注) 1 第82期の完成工事高のうち、請負金額5億円以上の主なものは次のとおりであります。
- | | |
|--------------------|------------------------------------|
| 関東地方整備局 | 国立感染症研究所村山庁舎9号棟機械設備(空調)工事 |
| 前田建設工業株式会社 | アビタ稲沢東店新築工事 |
| 株式会社ダイワテクノ | マーサ21増築工事 |
| 国立大学法人信州大学 | 国立大学法人信州大学医学部附属病院外来診療棟新営機械設備(空調)工事 |
| 株式会社カワサキプレジジョンマシナリ | KPM新工場建設工事の内、設備工事 |
- 2 第83期の完成工事高のうち、請負金額3億円以上の主なものは次のとおりであります。
- | | |
|----------------|--------------------------------------|
| 株式会社大林組 | 東急ハーヴェストクラブ有馬新築工事空調設備工事 |
| 国立大学法人大阪大学 | 大阪大学(吹田)ライフライン再生事業(受水槽等)工事 |
| 株式会社関電工 | 川崎市立小学校及び聾学校冷房化等事業(空調)(PFI) |
| 国立大学法人東京医科歯科大学 | 東京医科歯科大学医歯学総合研究棟 期新営機械設備(給排水)工事(その2) |
| 株式会社守谷商会 | 熊野倶楽部南地区建築工事 |
- 3 完成工事高総額に対する割合が100分の10以上の相手先の完成工事高およびその割合は、次のとおりであります。
- | | | | |
|-----------|-------------|-------|----------|
| 前事業年度 | | | |
| 川崎重工業株式会社 | 3,441,418千円 | 16.7% | |
| 当事業年度 | | | 該当ありません。 |

手持工事高(平成22年3月31日現在)

| 区分 | 官公庁(千円) | 民間(千円) | 合計(千円) |
|--------|-----------|-----------|------------|
| 一般ビル工事 | 5,058,878 | 7,438,856 | 12,497,734 |
| 産業施設工事 | | 909,677 | 909,677 |
| 電気工事 | | 80,002 | 80,002 |
| 合計 | 5,058,878 | 8,428,536 | 13,487,414 |

- (注) 手持工事のうち請負金額7億円以上の主なものは次のとおりであります。
- | | | |
|------------------------|----------------------------|-------------|
| 渋谷区 | 旧大和田小学校跡地施設建設空気調和設備工事 | 平成22年6月完成予定 |
| 大成建設株式会社 | 川崎重工業(株)神戸工場新総合事務所建設工事 | 平成24年3月完成予定 |
| 金下建設株式会社 | ポップタウン住道オペラパークA-2棟(東館)建設工事 | 平成22年9月完成予定 |
| 羽田再拡張D滑走路建設工事 共同企業体 | 羽田空港再拡張/ジャケット製作工事 | 平成22年8月完成予定 |
| 国立大学法人島根大学 | 島根大学(医病)病棟新営その他機械設備工事 | 平成23年6月完成予定 |

3 【対処すべき課題】

今後の見通しにつきましては、景気に一部持ち直しの動きが見られるものの、デフレ状況のなかで、特に建設業におきましては公共事業の縮小等、一層厳しい状況が続くと予想されます。

このような状況のなか、当社は、前事業年度に引き続き、黒字安定経営継続のため受注目標の達成に全社一丸となって努力すること、および株式会社関電工との協業メリットを最大限創出することを基本方針として諸施策を推進してまいります。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、当事業年度末現在において判断したものであり、事業等のリスクはこれらに限られるものではありません。

(1) 購入資材の価格変動リスク

当社は、鋼材等の建設資材を調達しておりますが、着工から竣工までに期間を要しますので、その間に原材料等の価格が高騰すると工事原価に影響を与える可能性があります。

(2) 売上債権回収に関するリスク

当社は、取引先の財務情報他を入手し、取引から発生するリスクを軽減すべく与信管理を実施しておりますが、工事代金の受領前に取引先が倒産した場合は、当社の経営成績並びに財政状況に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 工事施工期間中に発生する事故および災害に関するリスク

当社は、工事施工期間中の安全衛生、品質管理等に重点をおいて工事を施工しておりますが、不測の人的・物的の事故並びに災害等の発生に伴い、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 偶発債務（係争事件に係わる賠償責任等）の発生に関するリスク

当社は、竣工引き渡し後一定期間の間、瑕疵担保責任を負っております。この瑕疵担保責任により、訴訟等が提起された場合には、業績に影響を受ける可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

(1)研究開発の概要

当社の研究開発は、経営の基本方針である業界地位の向上を目指し、巨大化・総合化・複雑化が進展する社会のニーズに合わせ、空気調和・冷暖房・給排水・衛生・換気・防災・環境・工場施設・公害防止・電気・省エネルギー等に関する技術の研究・開発および新工法の開発を中心課題として推進しております。

なお、当事業年度における研究開発費は20百万円であります。

(2)主な研究開発

- (a)感染防止隔離装置の空調システムの技術開発
- (b)人工環境室の特殊空調技術の研究開発
- (c)CFD(Computational Fluid Dynamics: コンピューターによる熱・流体解析)による産業空調での検証技術の開発
- (d)成層空調システムの技術開発
- (e)橋梁桁内の防錆システムの技術開発

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態の分析

(流動資産)

当事業年度末における流動資産の残高は、89億65百万円(前期末は105億26百万円)となり、15億61百万円減少しました。その原因の主なものは未成工事支出金の減少(前期末27億34百万円から当期末15億5百万円へ12億29百万円減)であります。

(固定資産)

当事業年度末における固定資産の残高は、36億43百万円(前期末は37億8百万円)となり、65百万円減少しました。その原因の主なものは建物の減価償却累計額の増加(前期末 18億65百万円から当期末 19億35百万円へ70百万円増)による減少であります。

(流動負債)

当事業年度末における流動負債の残高は、86億32百万円(前期末は96億82百万円)となり、10億50百万円減少しました。この減少は、完成工事高減少による支払手形の減少(前期末29億18百万円から当期末20億78百万円へ8億40百万円減)、工事未払金の減少(前期末33億77百万円から当期末28億21百万円へ5億56百万円減)が主な要因であります。

(固定負債)

当事業年度末における固定負債の残高は、8億89百万円(前期末は17億31百万円)となり、8億41百万円減少しました。この減少の主なものは長期借入金を1年以内返済予定の長期借入金(流動負債)へ振り替えたことによるものであります。

(純資産)

当事業年度末における純資産の残高は、30億86百万円(前期末は28億21百万円)となり、2億64百万円増加しました。この増加は主に当期純利益によるものであります。

(2) 経営成績の分析

当事業年度の受注高は、160億32百万円（前期比15.9%減）となりました。工事種別では、一般ビル工事はホテルや研究施設の減少により122億75百万円（前期比5.9%減）、産業施設工事および電気工事は輸送用機器メーカーの工場関連施設の減少により、それぞれ30億55百万円（前期比34.6%減）、7億1百万円（前期比47.6%減）となりました。

完成工事高は、168億51百万円（前期比18.0%減）となりました。工事種別では、127億24百万円（前期比0.7%増）、産業施設工事および電気工事は輸送用機器メーカーの工場関連施設の減少により、それぞれ33億9百万円（前期比48.0%減）、8億17百万円（前期比47.6%減）となりました。

次期繰越高は、134億87百万円（前期比5.7%減）となりました。

損益につきましては、完成工事高減少による利益減少はありましたが、工事原価管理・工物品質管理の徹底による工事原価削減に努めた結果、経常利益は3億69百万円（前期比10.1%減）となり、当期純利益は貸倒引当金戻入額計上もあり3億3百万円（前期比9.2%増）となりました。

(3) キャッシュ・フローの分析

当事業年度におけるキャッシュ・フローの分析につきましては、第2 [事業の状況] 1 [業績等の概要] (2) キャッシュ・フローの状況 をご参照下さい。

なお、当社のキャッシュ・フロー指標のトレンドは下記のとおりであります。

| | 第79期 | 第80期 | 第81期 | 第82期 | 第83期 |
|----------------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| | 平成18年3月期 | 平成19年3月期 | 平成20年3月期 | 平成21年3月期 | 平成22年3月期 |
| 自己資本比率（％） | 10.9 | 12.2 | 16.8 | 19.8 | 24.5 |
| 時価ベースの自己資本比率（％） | 14.5 | 8.0 | 8.3 | 7.4 | 9.4 |
| キャッシュ・フロー対有利子負債比率（年） | 3.5 | | 1.8 | 1.8 | |
| インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍) | 16.6 | | 15.6 | 14.6 | |

(注) 1 自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / 営業活動によるキャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業活動によるキャッシュ・フロー / 利払い

* 株式時価総額は、期末株価終値 × 期末発行済株式総数（自己株式控除後）により算出しております。

* 有利子負債は、貸借対照表に計上されている負債のうち、短期借入金、長期借入金（1年以内返済）

および長期借入金を対象としております。また、利払いについてはキャッシュ・フロー計算書の「利息の支払額」を使用しております。

2 第80期および第83期のキャッシュ・フロー対有利子負債比率、インタレスト・カバレッジ・レシオは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」がマイナスのため表示しておりません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当事業年度における設備投資額は、51百万円であります。その主な内訳は事務所用設備の改修による取得であります。

2 【主要な設備の状況】

(平成22年3月31日現在)

| 事業所 (所在地) | 建物 (千円) | 構築物 (千円) | 機械及び装 置 (千円) | 工具器具・ 備品 (千円) | 土地 | | リース資産 (千円) | 投下 資本計 (千円) | 従業 員数 (人) |
|----------------------|------------|-------------|--------------------|---------------------|--------------------|------------|---------------|-------------------|-----------------|
| | | | | | 面積 (㎡) | 金額 (千円) | | | |
| 本店 (名古屋市中区) | 677 | | | 7,863 | | | 11,149 | 19,690 | 13 |
| 東京支店 (東京都渋谷区) | 437,598 | 2,430 | 1,019 | 418 | 401.18 | 591,175 | 4,754 | 1,037,398 | 55 |
| 大和事務所 (宮城県黒川郡大和町) | 10,581 | 1,005 | | | 297.52 | 20,000 | | 31,587 | 1 |
| 東関東支店 (千葉市中央区) | 957 | | | 13 | | | 1,317 | 2,287 | 4 |
| 岐阜支店 (岐阜県岐阜市) | 113,559 | | | 124 | 199.93 (145.46) | 16,654 | 1,063 | 131,403 | 18 |
| 名古屋支店 (名古屋市中区) | 165 | | | 238 | | | 5,546 | 5,950 | 37 |
| 豊田支店 (愛知県豊田市) | 14,915 | 784 | | 558 | 578.51 (432.00) | 367 | 680 | 17,306 | 18 |
| 大阪支店 (大阪市淀川区) | 3,043 | | | 302 | | | 1,254 | 4,601 | 19 |
| 神戸支店 (神戸市中央区) | 1,676 | | | 67 | | | 2,238 | 3,982 | 30 |
| 中国支店 (広島市西区) | 450 | | | 135 | | | 1,136 | 1,723 | 7 |
| 九州営業所 (福岡県宮若市) | | | | | | | 103 | 103 | 3 |
| 茨城営業所 (茨城県土浦市) | 70,566 | 17 | | 17 | 429.75 | 111,669 | 1,038 | 183,307 | 7 |
| 群馬営業所 (群馬県高崎市) | | | | | | | | | 1 |
| 多摩営業所 (東京都多摩市) | | | | | | | | | |
| 新潟営業所 (新潟市中央区) | 22,021 | | | 22 | 278.67 | 2,395 | | 24,438 | 1 |
| 北陸営業所 (石川県金沢市) | 16,022 | | | 44 | 353.71 | 5,776 | | 21,844 | 2 |
| 信州営業所 (長野県松本市) | 37,059 | 68 | | 29 | 385.00 | 2,904 | | 40,061 | 6 |
| 各務原営業所 (岐阜県各務原市) | 5,384 | | | | 1,118.60 | 100,631 | 1,335 | 107,351 | 9 |
| 静岡営業所 (静岡県沼津市) | | | | | | | | | 1 |

| 事業所 (所在地) | 建物 (千円) | 構築物 (千円) | 機械及び装 置 (千円) | 工具器具・ 備品 (千円) | 土地 | | リース資産 (千円) | 投下 資本計 (千円) | 従業 員数 (人) |
|--------------|--------------------|-------------|--------------------|---------------------|------------------------|------------|---------------|-------------------|-----------------|
| | | | | | 面積 (㎡) | 金額 (千円) | | | |
| 営業用 設備 | 西三河営業所 (愛知県刈谷市) | 3,538 | 271 | | 35 | | | 3,844 | 2 |
| | 三重営業所 (三重県津市) | | | | | | | | 1 |
| | 京都営業所 (京都市中京区) | 602 | | | 51 | | | 654 | 2 |
| | 島根営業所 (島根県松江市) | | | | | | | | 1 |
| | 水島営業所 (岡山県倉敷市) | 6,822 | | | 33 | 330.56 | 2,413 | 9,269 | 6 |
| | 四国営業所 (香川県丸亀市) | 430 | | | | (396.00) | | 163 | 594 |
| 計 | 746,075 | 4,577 | 1,019 | 9,957 | 4,373.43 (1,473.46) | 853,987 | 31,781 | 1,647,399 | 246 |
| 非営業 用設備 | 〔社員寮〕 | | | | | | | | |
| | 川設荘 (名古屋市中区) | 26,026 | | | 209 | 667.96 | 25,970 | 52,206 | |
| | 東京川設荘 (東京都多摩市) | 34,864 | | | 360 | 643.15 | 24,462 | 59,686 | |
| | 甲東園川設荘 (兵庫県西宮市) | 271,648 | 3,397 | 1,436 | 24 | 1,137.19 | 584,925 | 861,432 | |
| | 社員寮その他 (5ヶ所) | 217,667 | | | 0 | 214.07 | 209,802 | 427,470 | |
| | 保養施設 (5ヶ所) | 80,911 | | | 33 | 1,247.94 | 22,202 | 103,147 | |
| 計 | 631,119 | 3,397 | 1,436 | 629 | 3,910.31 | 867,362 | | 1,503,944 | |
| 合計 | 1,377,195 | 7,974 | 2,456 | 10,586 | 8,283.74 (1,473.46) | 1,721,349 | 31,781 | 3,151,344 | 246 |

- (注) 1 投下資本の金額は、有形固定資産の帳簿価額によっており、建設仮勘定は含んでおりません。
- 2 当社は一般ビル工事の他に産業施設工事等をおこなっておりますが、大半の設備は一般ビル工事または共通的に使用されているので、事業の種類別セグメントに分類せず、主要な事業所ごとに一括して記載しております。
- 3 土地の面積欄中()内は、賃借中のもので外書きで示しております。
- 4 休止設備はありません。
- 5 リース契約による主な賃借設備は次のとおりであります。

| 名称 | 数量 | リース期間 | 年間リース料 (千円) | リース契約残高 (千円) | 摘要 |
|------------------------------|----------|-------|----------------|-----------------|----------------------------|
| ソフトウェア (CAD, MS-OFFICE 他) | 375ライセンス | 5年 | 26,329 | 55,520 | リース契約 (所有権移転外ファイナンスリース) |
| パソコン・プリンタ (富士通 NEC 他) | 350台 | 5年 | 6,315 | 20,643 | 〃 |
| 複合機・複写機 (キヤノン 他) | 41台 | 5年 | 6,649 | 14,506 | 〃 |
| その他 (電話器, 通信機器 他) | 280台 | 5年 | 2,330 | 1,555 | 〃 |
| 車両運搬具 | 143台 | 5年 | 41,324 | 58,359 | 〃 |

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

特記事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

特記事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 35,000,000 |
| 計 | 35,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 事業年度末現在 発行数(株) (平成22年3月31日) | 提出日現在 発行数(株) (平22年6月30日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|-----------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|------------------------|
| 普通株式 | 12,000,000 | 12,000,000 | 名古屋証券取引所 (市場第二部) | 単元株式数は1,000株 であります。 |
| 計 | 12,000,000 | 12,000,000 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金 増減額 (千円) | 資本準備金 残高 (千円) |
|------------|-----------------------|----------------------|----------------|---------------|----------------------|---------------------|
| 平成15年8月16日 | | 12,000,000 | | 1,581,000 | 344,300 | 395,250 |

(注) 平成15年6月27日開催の定時株主総会における資本準備金減少決議に基づくその他資本剰余金への振替えによる減少であります。

(6) 【所有者別状況】

平成22年3月31日現在

| 区分 | 株式の状況(1単元の株式数1,000株) | | | | | | | 単元未満 株式の状況 (株) | |
|-----------------|----------------------|------|--------------|------------|-------|----|-----------|----------------------|--------|
| | 政府及び 地方公共 団体 | 金融機関 | 金融商品 取引業者 | その他の 法人 | 外国法人等 | | 個人 その他 | | 計 |
| | | | | | 個人以外 | 個人 | | | |
| 株主数 (人) | | 3 | 6 | 106 | | | 495 | 610 | |
| 所有株式数 (単元) | | 107 | 45 | 6,954 | | | 4,837 | 11,943 | 57,000 |
| 所有株式数 の割合(%) | | 0.89 | 0.38 | 58.23 | | | 40.50 | 100 | |

(注) 1 自己株式24,065株は「個人その他」に24単元および「単元未満株式の状況」に65株含まれております。

2 「単元未満株式の状況」には、証券保管振替機構名義の株式が400株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成22年3月31日現在

| 氏名又は名称 | 住所 | 所有株式数 (千株) | 発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%) |
|---|---|---------------|----------------------------|
| 株式会社関電工 | 東京都港区芝浦4-8-33 | 5,994 | 49.95 |
| 川崎設備工業取引先持株会 | 名古屋市中区錦2-18-5 | 1,593 | 13.28 |
| 川崎設備工業従業員持株会 | 名古屋市中区錦2-18-5 | 602 | 5.02 |
| 川崎重工業株式会社 | 東京都港区浜松町2-4-1 | 239 | 2.00 |
| 阪井 敬朗 | 和歌山県和歌山市 | 142 | 1.18 |
| 古沢 努 | 東京都練馬区 | 124 | 1.03 |
| 株式会社大垣共立銀行 (常任代理人資産管理サービス信託 銀行株式会社) | 岐阜県大垣市郭町3-98 (東京都中央区晴海1-8-12 晴海 アイランドトリトンスクエアオフィ スタワーZ棟) | 96 | 0.80 |
| 倉形 直之 | 神奈川県横浜市港北区 | 82 | 0.68 |
| 三川 信一 | 富山県高岡市 | 81 | 0.68 |
| 山田 善洋 | 兵庫県神戸市西区 | 65 | 0.54 |
| 計 | | 9,019 | 75.16 |

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成22年3月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-------------------------|----------|----|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 24,000 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 11,919,000 | 11,919 | |
| 単元未満株式 | 普通株式 57,000 | | |
| 発行済株式総数 | 12,000,000 | | |
| 総株主の議決権 | | 11,919 | |

(注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が400株含まれております。

2 「単元未満株式」欄の株式数には当社所有の自己株式65株が含まれております。

【自己株式等】

平成22年3月31日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%) |
|------------------------|-------------------|----------------------|----------------------|---------------------|--------------------------------|
| (自己保有株式) 川崎設備工業株式会社 | 名古屋市中区錦2 - 18 - 5 | 24,000 | | 24,000 | 0.20 |
| 計 | | 24,000 | | 24,000 | 0.20 |

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

| 区分 | 株式数(株) | 価額の総額(円) |
|-----------------|--------|----------|
| 当事業年度における取得自己株式 | 1,791 | 169,302 |
| 当期間における取得自己株式 | 600 | 63,600 |

(注) 当期間における取得自己株式には、平成22年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

| 区分 | 当事業年度 | | 当期間 | |
|-----------------------------|--------|------------|--------|------------|
| | 株式数(株) | 処分価額の総額(円) | 株式数(株) | 処分価額の総額(円) |
| 引き受ける者の募集を行った取得自己株式 | | | | |
| 消却の処分を行った取得自己株式 | | | | |
| 合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式 | | | | |
| その他 | | | | |
| 保有自己株式数 | 24,065 | | 24,665 | |

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成22年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は創業以来一貫して株主各位への利益還元を重要な課題と考え、企業体質の改善、経営基盤の強化を図りながら、業績に裏付けられた安定配当の継続を行うことを基本方針としております。

当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めておりますが、1事業年度の配当回数については、期末配当の年1回を基本方針としており、実施にあたっては収益状況などを勘案して、その都度決定する方針であります。剰余金の配当の決定機関は、中間配当については取締役会、期末配当については株主総会であります。

当事業年度の期末配当につきましては、当事業年度の業績、今後の事業展開および内部留保等を勘案し、1株当たり3円としました。

なお、当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

(注) 当事業年度に係る剰余金の配当は、以下のとおりであります。

| 決議年月日 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり配当額 (円) |
|------------------------|----------------|-----------------|
| 平成22年6月29日 定時株主総会決議 | 35,927 | 3.0 |

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

| 回次 | 第79期 | 第80期 | 第81期 | 第82期 | 第83期 |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 決算年月 | 平成18年3月 | 平成19年3月 | 平成20年3月 | 平成21年3月 | 平成22年3月 |
| 最高(円) | 276 | 439 | 135 | 114 | 110 |
| 最低(円) | 191 | 118 | 86 | 58 | 66 |

(注) 最高・最低株価は、名古屋証券取引所市場第二部における株価を記載しております。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

| 月別 | 平成21年10月 | 11月 | 12月 | 平成22年1月 | 2月 | 3月 |
|-------|----------|-----|-----|---------|-----|-----|
| 最高(円) | 101 | 98 | 94 | 100 | 100 | 103 |
| 最低(円) | 94 | 90 | 88 | 91 | 93 | 89 |

(注) 最高・最低株価は、名古屋証券取引所市場第二部における株価を記載しております。

5 【役員 の 状 況】

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|-------------|---------------------|--------|-------------|---|----------|---------------|
| 代表取締役 社長 | | 木村 嗣郎 | 昭和21年2月21日生 | 昭和43年3月 当社入社 平成12年4月 当社岐阜支店長 平成14年4月 当社名古屋支店長 平成16年6月 当社取締役名古屋支店長 平成17年4月 当社取締役社長付 平成17年6月 当社代表取締役社長(現) | (注) 3 | 34 |
| 常務取締役 | 管理本部長 | 坂部 彰一 | 昭和26年1月1日生 | 昭和48年4月 川崎重工業株式会社入社 平成11年10月 同社プラントエンジニアリング事業本部パワープラント事業部管理部長 平成17年4月 川崎エンジニアリング株式会社出向 平成19年4月 当社執行役員管理本部長 平成19年6月 当社常務取締役管理本部長 平成22年1月 当社常務取締役管理本部長兼企画経理部長(現) | (注) 3 | 14 |
| 常務取締役 | | 佐々木 光夫 | 昭和24年7月12日生 | 昭和47年4月 当株式会社関電工入社 平成15年7月 同社営業統轄本部営業第二部長 平成16年7月 同社理事東北支店長兼営業部長 平成18年7月 同社執行役員東北支店長 平成19年5月 同社執行役員営業統轄本部副本部長 平成19年6月 同社常務執行役員営業統轄本部副本部長 平成22年6月 当社常務取締役(現) | (注) 3 | |
| 取締役 | 営業本部長 兼 東京支店長 | 小澤 巧 | 昭和26年1月19日生 | 昭和50年4月 当社入社 平成14年4月 当社東京支店リニューアル部長 平成18年4月 当社東京支店副支店長 平成19年4月 当社執行役員東京支店長 平成21年6月 当社取締役営業本部長兼東京支店長(現) | (注) 3 | 12 |
| 取締役 | | 志村 英明 | 昭和33年6月22日生 | 昭和57年4月 株式会社関電工入社 平成17年7月 同社神奈川支店営業部副部長 平成18年7月 同社神奈川支店長営業部長 平成21年7月 同社名古屋支店長(現) 平成22年6月 当社取締役(現) | (注) 3 | |

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | | 任期 | 所有株式数 (千株) | |
|-------|----|-------|-------------|--|---|----------|---------------|----|
| 常勤監査役 | | 戸張 登 | 昭和32年7月29日生 | 昭和55年4月 平成17年7月 平成18年7月 平成19年7月 平成20年7月 平成22年6月 | 株式会社関電工入社 同社営業統轄本部営業総括部副部長 同社企画部部長 同社営業統轄本部営業企画部部長 同社業務革新推進室長 当社監査役(現) | (注) 4 | | |
| 監査役 | | 山路 正雄 | 昭和7年1月5日生 | 昭和32年4月 昭和42年4月 昭和44年3月 昭和44年4月 平成17年6月 | 判事補 判事 退官 弁護士登録(名古屋弁護士会) (現) 当社監査役(現) | (注) 5 | | |
| 監査役 | | 久世 善雄 | 昭和21年6月24日生 | 昭和40年3月 平成6年4月 平成15年4月 平成15年6月 平成18年6月 平成22年6月 | 当社入社 当社岐阜支店設計部長 当社管理本部付部長 当社常勤監査役 当社常勤監査役退任 当社監査役(現) | (注) 4 | | |
| 計 | | | | | | | | 60 |

- (注) 1 取締役志村英明は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
- 2 監査役戸張 登および山路正雄は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、平成22年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役の任期は、平成22年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役の任期は、平成21年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

[次へ](#)

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

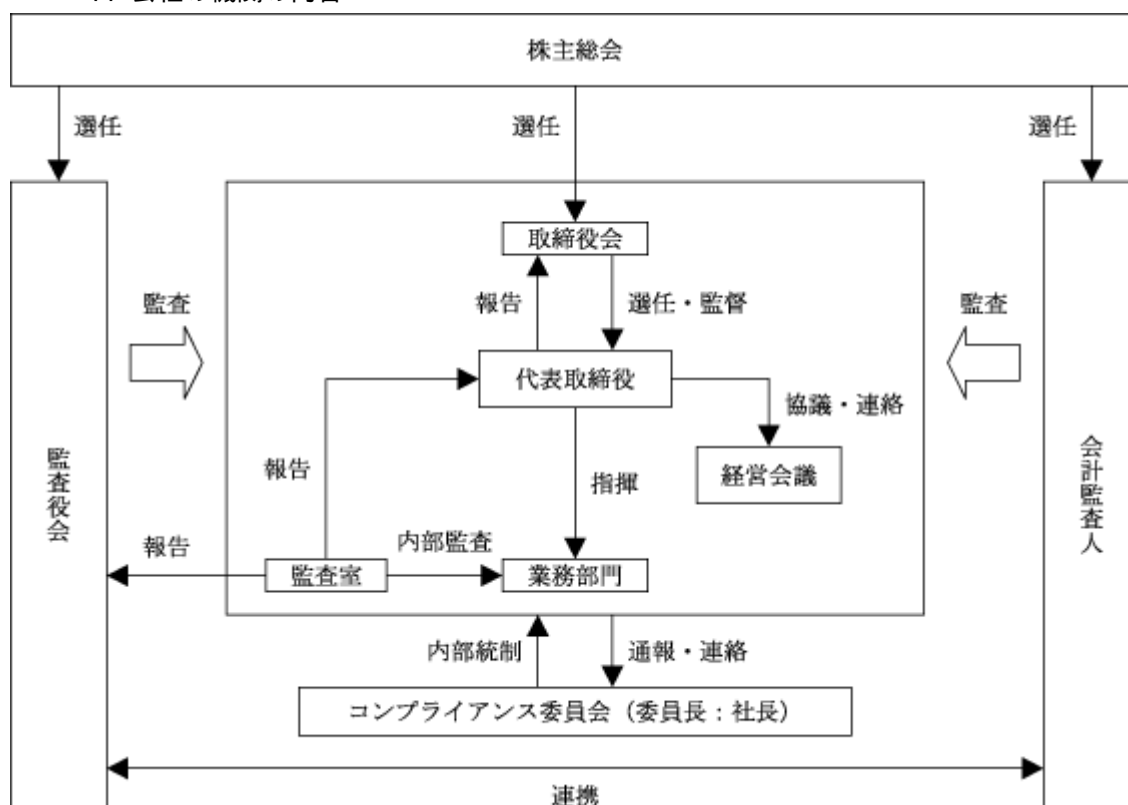
当社は、上場企業として社会的使命と責任をはたし、継続的な発展と成長を目指すため、コーポレート・ガバナンスの充実が重要な経営課題であるとの認識に立ち、内部監査体制の整備等による法令違反行為の未然防止、取締役会および監査役会の機能強化、ディスクロージャーの充実等に努めております。

企業統治の体制

イ 経営管理体制

当社は監査役制度採用会社であり、社外監査役を含む監査役会が取締役会を牽制する体制としております。

ロ 会社の機関の内容



< 取締役会 >

取締役会は、5名の取締役で構成され、監査役出席のもと、業務執行に関する意思決定と取締役の業務執行の監督を行っております。

< 監査役 >

監査役は、取締役会のほか重要な会議に出席して取締役の職務執行を監査しております。

< 内部統制 >

当社の内部統制は、組織規程、業務分掌規程、職務権限取扱規程等の社内規程により業務執行部門、責任の所在を明確化し、これら規程に基づき適正な職務遂行を行うことにより内部管理、内部牽制機構を整備しております。また、各部門に対して各種規程の遵守状況、業務執行の適正性、能率性を監査するため監査室による内部監査を実施しております。

<リスク管理に関する体制>

リスク管理に関する体制としては、1)重要案件ごとに、取締役会・経営会議での審議ないし決裁手続きの過程において、想定されるリスク判断を含めた検討を行う 2)営業管理規程・資金業務規程等各部門における損失リスクの管理についての規程に基づき、損失の早期把握、発生の予防を図る 3)不測の事態が発生した場合は、社長直轄の対策本部を設置し、迅速に対応することにより、損失の拡大を防止することとしております。

内部監査及び監査役監査

内部監査については、内部監査規程に基づき社長直属組織として監査室（1名）が諸規程、諸法規遵守状況の監査を実施しております。

監査役は取締役会その他重要な会議に出席するほか、必要の都度取締役に報告を求め、監査室、監査法人と連携して取締役の職務執行に関して厳正な監査を行っております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名であります。また、社外監査役は2名であります。

社外取締役志村英明は㈱関電工の従業員であります。社外監査役戸張 登は㈱関電工の従業員であり、社外監査役山路正雄は弁護士であります。㈱関電工は当社の親会社であります。

社外取締役1名を含む取締役会が業務執行を監督し、社外監査役2名を含む監査役が取締役の業務執行を監査する現状の体制で適正な監視機能が発揮できると判断し、採用しております。なお、社外監査役のうち1名は独立役員として指定しています。

社外取締役・社外監査役の役割・機能は豊富な識見と幅広い経験を当社の経営・監視に反映していただくことにより経営に客観性を持たせ、ガバナンスを強化することであります。

役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

| 役員区分 | 報酬等の総額 (千円) | 報酬等の種類別の総額(千円) | | | | 対象となる 役員の員数 (名) |
|--------------------|----------------|----------------|---------------|-------|-------|-----------------------|
| | | 基本報酬 | ストック オプション | 賞与 | 退職慰労金 | |
| 取締役 (社外取締役を除く。) | 70,359 | 63,949 | | 6,410 | | 5 |
| 監査役 (社外監査役を除く。) | 9,720 | 9,720 | | | | 1 |
| 社外役員 | 17,835 | 17,835 | | | | 2 |

(注) 取締役の賞与の額は、平成22年6月29日開催の定時株主総会で決議されたものであります。

ロ 提出会社の役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

使用人兼務役員の使用人給与に重要なものはありません。

二 役員の報酬等の額の決定に関する方針

役員報酬決定の基本方針は、各役員の経歴・職務・職責に応じ、当社の業績・経営環境等を考慮のうえ決定することであります。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 28銘柄
貸借対照表計上額の合計額 234,020千円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式のうち、当事業年度における貸借対照表計上額
の上位10銘柄

| 銘柄 | 株式数 (株) | 貸借対照表計上額 (千円) | 保有目的 |
|----------------------|------------|------------------|----------|
| (株)大垣共立銀行 | 243,000 | 78,489 | 企業間取引の強化 |
| 川崎重工業(株) | 140,000 | 36,120 | 企業間取引の強化 |
| JFEホールディングス(株) | 8,700 | 32,755 | 企業間取引の強化 |
| (株)三菱UFJフィナンシャル・グループ | 21,750 | 10,657 | 企業間取引の強化 |
| (株)グッドマン | 13,000 | 8,567 | 企業間取引の強化 |
| 中部電力(株) | 2,461 | 5,751 | 企業間取引の強化 |
| (株)キッツ | 10,000 | 5,450 | 企業間取引の強化 |
| (株)みずほフィナンシャルグループ | 25,000 | 4,625 | 企業間取引の強化 |
| イオン(株) | 3,400 | 3,607 | 企業間取引の強化 |
| (株)岐阜銀行 | 87,000 | 2,958 | 企業間取引の強化 |

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

ニ 保有目的を変更した投資株式

該当事項はありません。

会計監査の状況

会計監査につきましては、あずさ監査法人と監査契約を締結し、監査を受けております。当事業年度において業務を執行した公認会計士の氏名、監査年数、監査業務に係る補助者の構成は以下のとおりであります。

会計監査業務を執行した公認会計士

あずさ監査法人 指定社員 業務執行社員 黒崎 寛

指定社員 業務執行社員 神田正史

なお、継続監査年数については、7年以内であるため記載を省略しています。

監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 4名

その他 5名

責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役志村英明および社外監査役山路正雄との間で、会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任限度額は、法令が規定する額となっております。

取締役の定数

当社の取締役は20名以内とする旨を定款で定めております。(在籍5名)

取締役の選任の議決要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨および累積投票によらない旨を定款に定めております。

取締役会で決議できる株主総会決議事項

1) 自己の株式の取得

当社は、機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

2) 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

| 前事業年度 | | 当事業年度 | |
|------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| 監査証明業務に基づく報酬(千円) | 非監査業務に基づく報酬(千円) | 監査証明業務に基づく報酬(千円) | 非監査業務に基づく報酬(千円) |
| 22,000 | | 22,000 | |

【その他重要な報酬の内容】

前事業年度

該当事項はありません。

当事業年度

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前事業年度

該当事項はありません。

当事業年度

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は、監査及び四半期レビューの内容、所要日数、会社の規模等の要素を勘案して決定しております。

第5 【経理の状況】

1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。)第2条の規定に基づき、同規則および「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)により作成しております。

なお、前事業年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)は、改正前の財務諸表等規則および建設業法施行規則に基づき、当事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正後の財務諸表等規則および建設業法施行規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前事業年度(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)、および当事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)の財務諸表について、あずさ監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表について

「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を誤らせない程度に重要性が乏しいものとして、連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準および利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

| | |
|---------|-------|
| 資産基準 | 0.50% |
| 売上高基準 | 0.93% |
| 利益基準 | 2.51% |
| 利益剰余金基準 | 0.26% |

会社間項目の消去後の数値により算出しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

該当事項はありません。

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成21年3月31日) | 当事業年度 (平成22年3月31日) |
|-------------|------------------------|-------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金預金 | 1,985,597 | 1,224,469 |
| 受取手形 | ³ 954,439 | ^{2, 3} 942,203 |
| 完成工事未収入金 | ³ 4,279,610 | ² 4,906,192 |
| 未成工事支出金 | 2,734,919 | 1,505,204 |
| 前払費用 | 18,288 | 18,248 |
| 未収消費税等 | 35,067 | - |
| 立替金 | 548,387 | 386,465 |
| その他 | 58,745 | 50,750 |
| 貸倒引当金 | 88,400 | 68,500 |
| 流動資産合計 | 10,526,655 | 8,965,035 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | ³ 3,299,138 | ³ 3,312,715 |
| 減価償却累計額 | 1,865,324 | 1,935,519 |
| 建物(純額) | 1,433,814 | 1,377,195 |
| 構築物 | ³ 51,552 | ³ 51,552 |
| 減価償却累計額 | 42,487 | 43,577 |
| 構築物(純額) | 9,064 | 7,974 |
| 機械及び装置 | ³ 31,330 | ³ 31,330 |
| 減価償却累計額 | 28,236 | 28,873 |
| 機械及び装置(純額) | 3,093 | 2,456 |
| 車両運搬具 | 126 | 126 |
| 減価償却累計額 | 126 | 126 |
| 車両運搬具(純額) | - | - |
| 工具器具・備品 | 62,836 | 61,239 |
| 減価償却累計額 | 50,954 | 50,652 |
| 工具器具・備品(純額) | 11,882 | 10,586 |
| 土地 | ³ 1,743,545 | ³ 1,721,349 |
| リース資産 | 8,997 | 37,894 |
| 減価償却累計額 | 1,372 | 6,112 |
| リース資産(純額) | 7,624 | 31,781 |
| 建設仮勘定 | 7,103 | - |
| 有形固定資産計 | 3,216,129 | 3,151,344 |
| 無形固定資産 | | |
| 借地権 | 30,000 | 11,750 |
| リース資産 | 10,626 | 49,983 |
| 電話加入権 | 18,035 | 18,035 |
| その他 | 3,163 | 2,210 |

| | 前事業年度 (平成21年3月31日) | 当事業年度 (平成22年3月31日) |
|---------------|-----------------------|-----------------------|
| 無形固定資産計 | 61,825 | 81,979 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 3 250,177 | 3 234,020 |
| 関係会社株式 | 30,000 | 30,000 |
| 出資金 | 5,934 | 5,934 |
| 破産債権、更生債権等 | 408,152 | 355,693 |
| 長期前払費用 | 4,197 | 3,697 |
| 会員権 | 158,414 | 156,414 |
| その他 | 24,370 | 22,978 |
| 貸倒引当金 | 450,435 | 398,636 |
| 投資その他の資産計 | 430,811 | 410,102 |
| 固定資産合計 | 3,708,766 | 3,643,426 |
| 資産合計 | 14,235,421 | 12,608,461 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形 | 2,918,118 | 2 2,078,085 |
| 工事未払金 | 3,377,673 | 2 2,821,477 |
| 短期借入金 | 100,000 | 3, 4 350,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 3, 5 280,000 | 3, 5 882,000 |
| リース債務 | 4,323 | 20,459 |
| 未払金 | 7,458 | 5,677 |
| 未払費用 | 218,533 | 201,510 |
| 未払法人税等 | 19,822 | 31,770 |
| 未払消費税等 | - | 100,363 |
| 未成工事受入金 | 1,775,795 | 1,300,312 |
| 預り金 | 569,364 | 466,024 |
| 賞与引当金 | 197,522 | 139,027 |
| 役員賞与引当金 | - | 6,410 |
| 完成工事補償引当金 | 91,023 | 62,025 |
| 工事損失引当金 | 123,278 | 1 167,373 |
| 流動負債合計 | 9,682,913 | 8,632,516 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 3, 5 882,000 | - |
| リース債務 | 14,839 | 65,392 |
| 退職給付引当金 | 821,846 | 804,034 |
| 環境対策引当金 | - | 9,383 |
| 繰延税金負債 | 12,805 | 11,123 |
| 固定負債合計 | 1,731,490 | 889,933 |
| 負債合計 | 11,414,404 | 9,522,449 |

| | 前事業年度 (平成21年3月31日) | 当事業年度 (平成22年3月31日) |
|--------------|-----------------------|-----------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,581,000 | 1,581,000 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | 395,250 | 395,250 |
| 資本剰余金合計 | 395,250 | 395,250 |
| 利益剰余金 | | |
| その他利益剰余金 | | |
| 繰越利益剰余金 | 822,671 | 1,090,177 |
| 利益剰余金合計 | 822,671 | 1,090,177 |
| 自己株式 | 5,211 | 5,381 |
| 株主資本合計 | 2,793,709 | 3,061,046 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 27,308 | 24,965 |
| 評価・換算差額等合計 | 27,308 | 24,965 |
| 純資産合計 | 2,821,017 | 3,086,011 |
| 負債純資産合計 | 14,235,421 | 12,608,461 |

【損益計算書】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) |
|--------------|---|---|
| 完成工事高 | 20,560,042 | 16,851,048 |
| 完成工事原価 | 18,747,541 | 15,209,094 |
| 完成工事総利益 | 1,812,501 | 1,641,953 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 役員報酬 | 96,702 | 91,504 |
| 従業員給料手当 | 485,346 | 456,061 |
| 賞与引当金繰入額 | 51,190 | 34,451 |
| 役員賞与引当金繰入額 | - | 6,410 |
| 退職給付費用 | 26,469 | 23,380 |
| 法定福利費 | 84,399 | 69,794 |
| 福利厚生費 | 11,089 | 16,570 |
| 修繕維持費 | 47,106 | 28,641 |
| 事務用品費 | 31,763 | 61,969 |
| 通信交通費 | 70,922 | 77,588 |
| 動力用水光熱費 | 11,605 | 24,029 |
| 調査研究費 | 12,928 | 20,102 |
| 広告宣伝費 | 3,874 | 2,355 |
| 貸倒引当金繰入額 | 138,245 | - |
| 交際費 | 29,070 | 29,269 |
| 寄付金 | 3,381 | 1,171 |
| 地代家賃 | 32,015 | 59,638 |
| 減価償却費 | 54,865 | 91,952 |
| 租税公課 | 33,985 | 41,461 |
| 保険料 | 2,177 | 2,404 |
| 雑費 | 108,549 | 112,529 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 1,335,690 | 1,251,288 |
| 営業利益 | 476,810 | 390,665 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 2,450 | 562 |
| 受取配当金 | 10,393 | 3,540 |
| 受取保険金 | - | 5,000 |
| 貸倒引当金戻入額 | 11,002 | 24,132 |
| 雑収入 | 5,364 | 3,408 |
| 営業外収益合計 | 29,210 | 36,644 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 48,537 | 37,875 |
| 売上債権売却損 | 16,146 | 8,296 |
| 固定資産処分損 | 14,825 | 51 |
| 雑支出 | 15,738 | 11,938 |
| 営業外費用合計 | 95,248 | 58,162 |
| 経常利益 | 410,773 | 369,148 |

| | 前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) |
|-----------------|---|---|
| 特別利益 | | |
| 貸倒引当金戻入額 | - | 32,222 |
| 特別利益合計 | - | 32,222 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | - | ³ 31,916 |
| 投資有価証券評価損 | 13,431 | 12,199 |
| 貸倒引当金繰入額 | 92,064 | - |
| 環境対策引当金繰入額 | - | 9,383 |
| 過年度損益修正損 | - | ² 17,250 |
| 特別損失合計 | 105,496 | 70,750 |
| 税引前当期純利益 | 305,277 | 330,620 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 27,515 | 27,180 |
| 法人税等合計 | 27,515 | 27,180 |
| 当期純利益 | 277,761 | 303,439 |

【完成工事原価報告書】

| 区分 | 注記 番号 | 前事業年度 (自 平成20年 4 月 1 日 至 平成21年 3 月31日) | | 当事業年度 (自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日) | |
|---------|----------|--|------------|--|------------|
| | | 金額(千円) | 百分比 (%) | 金額(千円) | 百分比 (%) |
| 1 材料費 | | 4,424,230 | 23.6 | 3,309,253 | 21.8 |
| 2 外注費 | | 12,018,684 | 64.1 | 9,878,005 | 64.9 |
| 3 経費 | | 2,304,625 | 12.3 | 2,021,834 | 13.3 |
| (うち人件費) | | (1,298,849) | (6.9) | (1,197,217) | (7.9) |
| 計 | | 18,747,541 | 100.0 | 15,209,094 | 100.0 |

(注) 1 原価計算の方法は、実際個別原価計算制度を採用しております。

2 完成工事原価に含まれている完成工事補償引当金繰入額

前事業年度 91,023千円 当事業年度 62,025千円

3 完成工事原価に含まれている工事損失引当金繰入額

前事業年度 122,212千円 当事業年度 167,373千円

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) |
|-----------------|---|---|
| 株主資本 | | |
| 資本金 | | |
| 前期末残高 | 1,581,000 | 1,581,000 |
| 当期末残高 | 1,581,000 | 1,581,000 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | | |
| 前期末残高 | 395,250 | 395,250 |
| 当期末残高 | 395,250 | 395,250 |
| 資本剰余金合計 | | |
| 前期末残高 | 395,250 | 395,250 |
| 当期末残高 | 395,250 | 395,250 |
| 利益剰余金 | | |
| その他利益剰余金 | | |
| 繰越利益剰余金 | | |
| 前期末残高 | 544,909 | 822,671 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | - | 35,933 |
| 当期純利益 | 277,761 | 303,439 |
| 当期変動額合計 | 277,761 | 267,506 |
| 当期末残高 | 822,671 | 1,090,177 |
| 利益剰余金合計 | | |
| 前期末残高 | 544,909 | 822,671 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | - | 35,933 |
| 当期純利益 | 277,761 | 303,439 |
| 当期変動額合計 | 277,761 | 267,506 |
| 当期末残高 | 822,671 | 1,090,177 |
| 自己株式 | | |
| 前期末残高 | 5,009 | 5,211 |
| 当期変動額 | | |
| 自己株式の取得 | 202 | 169 |
| 当期変動額合計 | 202 | 169 |
| 当期末残高 | 5,211 | 5,381 |
| 株主資本合計 | | |
| 前期末残高 | 2,516,149 | 2,793,709 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | - | 35,933 |
| 当期純利益 | 277,761 | 303,439 |
| 自己株式の取得 | 202 | 169 |
| 当期変動額合計 | 277,559 | 267,337 |
| 当期末残高 | 2,793,709 | 3,061,046 |

| | 前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) |
|---------------------|---|---|
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | | |
| 前期末残高 | 71,401 | 27,308 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 44,093 | 2,343 |
| 当期変動額合計 | 44,093 | 2,343 |
| 当期末残高 | 27,308 | 24,965 |
| 評価・換算差額等合計 | | |
| 前期末残高 | 71,401 | 27,308 |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 44,093 | 2,343 |
| 当期変動額合計 | 44,093 | 2,343 |
| 当期末残高 | 27,308 | 24,965 |
| 純資産合計 | | |
| 前期末残高 | 2,587,551 | 2,821,017 |
| 当期変動額 | | |
| 剰余金の配当 | - | 35,933 |
| 当期純利益 | 277,761 | 303,439 |
| 自己株式の取得 | 202 | 169 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 44,093 | 2,343 |
| 当期変動額合計 | 233,465 | 264,993 |
| 当期末残高 | 2,821,017 | 3,086,011 |

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) |
|-------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税引前当期純利益 | 305,277 | 330,620 |
| 減価償却費 | 82,450 | 94,568 |
| 減損損失 | - | 31,916 |
| 貸倒引当金の増減額（ は減少） | 226,462 | 71,287 |
| 賞与引当金の増減額（ は減少） | 22,263 | 58,494 |
| 完成工事補償引当金の増減額（ は減少） | 17,226 | 28,997 |
| 工事損失引当金の増減額（ は減少） | 152,142 | 44,095 |
| 役員賞与引当金の増減額（ は減少） | - | 6,410 |
| 退職給付引当金の増減額（ は減少） | 23,129 | 17,811 |
| 環境対策引当金の増減額（ は減少） | - | 9,383 |
| 受取利息及び受取配当金 | 12,843 | 4,103 |
| 支払利息 | 48,537 | 37,875 |
| 投資有価証券評価損益（ は益） | 13,431 | 12,199 |
| 固定資産処分損益（ は益） | 14,825 | 51 |
| 過年度損益修正損 | - | 17,250 |
| 売上債権の増減額（ は増加） | 1,302 | 614,346 |
| 未成工事支出金の増減額（ は増加） | 826,155 | 1,229,714 |
| 未収消費税等の増減額（ は増加） | 35,067 | 35,067 |
| 立替金の増減額（ は増加） | 310,008 | 161,921 |
| 破産更生債権等の増減額（ は増加） | 96,957 | 51,927 |
| その他の流動資産の増減額（ は増加） | 23,960 | 7,202 |
| 仕入債務の増減額（ は減少） | 529,616 | 1,396,228 |
| 未成工事受入金の増減額（ は減少） | 19,539 | 475,483 |
| 未払消費税等の増減額（ は減少） | 158,696 | 100,363 |
| 預り金の増減額（ は減少） | 17,376 | 103,339 |
| 未払費用の増減額（ は減少） | 46,194 | 17,128 |
| その他の流動負債の増減額（ は減少） | 7,300 | 2,795 |
| その他 | 23,078 | 3,202 |
| 小計 | 781,955 | 610,654 |
| 利息及び配当金の受取額 | 12,859 | 4,279 |
| 利息の支払額 | 48,679 | 37,695 |
| 法人税等の支払額 | 33,035 | 13,227 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 713,098 | 657,298 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の払戻による収入 | 100,000 | 100,000 |
| 有形固定資産の取得による支出 | 528 | 25,437 |
| 投資有価証券の取得による支出 | 66 | 67 |
| 投資有価証券の売却による収入 | 2,100 | - |
| 貸付けによる支出 | 30,000 | - |
| 貸付金の回収による収入 | 33,785 | 100 |
| 会員権の取得による支出 | 3,300 | - |
| 会員権の売却による収入 | 13,852 | 432 |
| その他 | 348 | 802 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 116,191 | 75,829 |

| | 前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) |
|-------------------------|---|---|
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額（ は減少） | 240,000 | 250,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | 280,000 | 280,000 |
| 配当金の支払額 | - | 35,499 |
| リース債務の返済による支出 | 2,455 | 13,990 |
| その他 | 202 | 169 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 522,657 | 79,659 |
| 現金及び現金同等物の増減額（ は減少） | 306,632 | 661,127 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,478,964 | 1,785,597 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1,785,597 | 1,124,469 |

【重要な会計方針】

| 項目 | 前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) |
|--------------------|--|---|
| 1 有価証券の評価基準及び評価方法 | (1) 子会社株式 移動平均法による原価法 (2) その他有価証券 時価のあるもの 期末日の市場価格等に基づく 時価法(評価差額は全部純資 産直入法により処理し、売却 原価は移動平均法により算定 しております。) 時価のないもの 移動平均法による原価法 | (1) 子会社株式 同左 (2) その他有価証券 時価のあるもの 同左 時価のないもの 同左 |
| 2 たな卸資産の評価基準及び評価方法 | (1) 未成工事支出金 個別法による原価法 | (1) 未成工事支出金 同左 |
| 3 固定資産の減価償却の方法 | (1) 有形固定資産(リース資産を除く) 定率法(ただし、平成10年4月1日 以降に取得した建物(建物附属設 備を除く)については定額法)に よっております。 なお、耐用年数および残存価額 については、法人税法に規定する 方法と同一の基準によっております。 (追加情報) 有形固定資産の耐用年数の変更 機械装置の耐用年数について は、当事業年度より、平成20年度法 人税法の改正を契機として見直し を行い、従来の15年から10年に変 更しております。 これによる損益に与える影響は 軽微であります。 (少額減価償却資産(リース資産を 除く)) 取得価額が10万円以上20万円未 満の資産については、3年間で均 等償却する方法によっております。 (2) 無形固定資産(リース資産を除く) 定額法によっております。 なお、耐用年数については、法人 税法に規定する方法と同一の基準 によっております。 ただし、自社利用のソフトウェ アについては、社内における利用 可能期間(5年)に基づく定額法に よっております。 | (1) 有形固定資産(リース資産を除く) 定率法(ただし、平成10年4月1日 以降に取得した建物(建物附属設 備を除く)については定額法)に よっております。 なお、耐用年数および残存価額 については、法人税法に規定する 方法と同一の基準によっております。 (少額減価償却資産(リース資産を 除く)) 同左 (2) 無形固定資産(リース資産を除く) 同左 |

| 項目 | 前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) |
|------------|--|---|
| | <p>(3) リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年 3月31日以前のリース取引につきましては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p> | <p>(3) リース資産 同左</p> |
| 4 引当金の計上基準 | <p>(1) 貸倒引当金 売上債権、貸付金等の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員に対する賞与支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>(4) 完成工事補償引当金 完成工事に対するかし担保の費用に備えるため、当該事業年度末に至る1年間の完成工事高に過年度の実績を基礎に将来の見込みを加味して算出した率を乗じて計上しております。</p> <p>(5) 工事損失引当金 受注工事に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末手持工事のうち損失の発生が見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積もることができる工事について、損失見積額を計上しております。</p> | <p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 役員賞与引当金 役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>(4) 完成工事補償引当金 同左</p> <p>(5) 工事損失引当金 同左</p> |

| 項目 | 前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) |
|----|---|---|
| | <p>(6) 退職給付引当金</p> <p>従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。</p> <p>過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額を費用処理することとしております。</p> <p>数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。</p> | <p>(6) 退職給付引当金 同左</p> <p>(会計方針の変更) 当事業年度より、「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)(企業会計基準第19号平成20年7月31日)を適用しております。この変更による影響はありません。</p> <p>(7) 環境対策引当金 「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」により義務付けられているPCB廃棄物の処理に備えるため、当該処理費用見込額を計上しております。</p> |

| 項目 | 前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) |
|--------------|---|---|
| 5 完成工事高の計上基準 | <p>完成工事高の計上基準は、一定規模を超える長期大型工事(工期1年超かつ請負金額10億円以上で進捗率が20%以上)については工事進行基準を採用し、その他の工事については工事完成基準を採用しております。</p> <p>なお、工事進行基準による完成工事高は、1,589,472千円であります。</p> | <p>当事業年度に着手した工事契約から当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。</p> <p>なお、工事進行基準による完成工事高は、1,785,916千円であります。</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>請負工事に係る収益の計上基準については、従来、長期大型工事(工期1年超かつ請負金額10億円以上で進捗率が20%以上)については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しておりましたが、当事業年度から「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)および「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)が適用されたことに伴い、当事業年度に着手した工事契約から、当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。なお、平成21年3月31日以前に着手した工事契約のうち、長期大型工事(工期1年超かつ請負金額10億円以上で進捗率が20%以上)については工事進行基準を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。これにより、従来の方法によった場合と比べ、当事業年度に係る完成工事高は1,025,190千円増加し、営業利益、経常利益および税引前当期純利益は、それぞれ118,905千円増加しております。</p> |

| 項目 | 前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) |
|---------------------------|--|--|
| 6 ヘッジ会計の方法 | ヘッジ会計の方法 ヘッジ会計の要件を満たす金利スワップについて、特例処理を採用しております。 ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 デリバティブ取引(金利スワップ取引) ヘッジ対象 長期借入金の変動金利 ヘッジ方針 長期借入による資金調達において、変動金利を固定金利に換える金利スワップに限定しております。 ヘッジの有効性評価の方法 事前の有効性評価として、取引開始時に特例処理の要件を満たす金利スワップ取引であるか評価しております。 | ヘッジ会計の方法 同左 ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 同左 ヘッジ対象 同左 ヘッジ方針 同左 ヘッジの有効性評価の方法 同左 |
| 7 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲 | キャッシュ・フロー計算における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。 | 同左 |
| 8 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項 | 消費税等の会計処理 消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。 | 消費税等の会計処理 同左 |

【会計処理の変更】

| 前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) |
|--|---|
| (リース取引に関する会計基準) 所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当事業年度より、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))を適用し、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 これによる当事業年度の損益に与える影響は軽微であります。 | |

【表示方法の変更】

| <p>前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)</p> | <p>当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)</p> |
|--|--|
| <p>(損益計算書関係) 前事業年度において独立掲記しておりました営業外収益の「保険配当金」は、その金額が営業外収益合計の100分の10以下のため営業外収益の「雑収入」に含めて表示しております。なお、営業外収益の「雑収入」に含まれている「保険配当金」は、1,822千円であります。 (キャッシュ・フロー計算書関係) 営業活動によるキャッシュ・フローの「固定資産処分損益(は益)」につきましては、前事業年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、明瞭表示のために区分掲記しております。なお、前事業年度において営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めて表示しておりました「固定資産処分損」は、4,199千円であります。 営業活動によるキャッシュ・フローの「破産更生債権等の増減額(は増加)」につきましては、前事業年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、金額的重要性が生じたために、区分掲記しております。なお、前事業年度において営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めて表示しておりました「破産更生債権等の増加額」は、8,624千円であります。 営業活動によるキャッシュ・フローの「未払費用の増減額(は減少)」につきましては、前事業年度は「その他流動負債の増減額(は減少)」に含めて表示しておりましたが、明瞭表示のために区分掲記しております。なお、前事業年度において「その他流動負債の増減額(は減少)」に含めて表示しておりました「未払費用の増加額」は、13,325千円であります。 前事業年度において営業活動によるキャッシュ・フローに区分掲記しておりました、「投資有価証券売却損益(は益)」(当事業年度 99千円)、「ゴルフ会員権評価損」(当事業年度540千円)、「会員権売却損益(は益)」(当事業年度255千円)は、金額的重要性が低くなったため、当事業年度においては営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めて表示しております。</p> | <p>(キャッシュ・フロー計算書関係) 営業活動によるキャッシュ・フローの「減損損失」につきましては、前事業年度は「その他」に含めて表示しておりましたが、明瞭表示のために区分掲記しております。なお、前事業年度において営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めて表示しておりました「減損損失」は、1,220千円であります。</p> |

[次へ](#)

【注記事項】

(貸借対照表関係)

| 前事業年度 (平成21年3月31日) | 当事業年度 (平成22年3月31日) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-----------------------|-------------|----|-----------|--------|-------|------|---------|--------|---------|----------|-----------|---|-----------|-------|--|-------|-------------|--------------------|--|---|-----------|-----------------------|-------------|--------|--|-----|-----------|--|-----------------|-----------|--------------|-----------|--------|-------------|----|-----------|--------|-------|------|---------|--------|---------|---|-----------|-------|-----------|-------|---------|--------------------|--|---|-----------|------------|-------------|--------|---------|-----|-----------|
| <p>3 担保に供している資産の内訳およびその対応する債務の内訳は以下のとおりであります。</p> <p>(イ)担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物・構築物</td> <td style="text-align: right;">1,326,274千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">1,716,234</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">3,093</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">受取手形</td> <td style="text-align: right;">702,369</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">196,893</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">完成工事未収入金</td> <td style="text-align: right;">2,129,318</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">6,074,183</td> </tr> </table> <p>上記以外に、未成工事に係る工事請負代金未入金額（請負契約金額 - 既入金額）を担保提供していません。</p> <p>(ロ)上記に対応する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">短期借入金</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">1,162,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">(内1年以内返済分 280,000)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,162,000</td> </tr> </table> <p>なお、シンジケートローン契約に基づき当社名義の別段預金に137,885千円が留保されております。</p> <p>4 当社は運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行8行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。</p> <p>当事業年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">2,600,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">借入実行残高</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,600,000</td> </tr> </table> | 建物・構築物 | 1,326,274千円 | 土地 | 1,716,234 | 機械及び装置 | 3,093 | 受取手形 | 702,369 | 投資有価証券 | 196,893 | 完成工事未収入金 | 2,129,318 | 計 | 6,074,183 | 短期借入金 | | 長期借入金 | 1,162,000千円 | (内1年以内返済分 280,000) | | 計 | 1,162,000 | 当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額 | 2,600,000千円 | 借入実行残高 | | 差引額 | 2,600,000 | <p>1 損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金と工事損失引当金は、相殺せずに両建てで表示しております。</p> <p>損失の発生が見込まれる工事契約に係る未成工事支出金のうち、工事損失引当金に対応する額は76,118千円であります。</p> <p>2 関係会社に対するものは次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">受取手形および完成工事未収入金</td> <td style="text-align: right;">203,325千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">支払手形および工事未払金</td> <td style="text-align: right;">126,259千円</td> </tr> </table> <p>3 担保に供している資産の内訳およびその対応する債務の内訳は以下のとおりであります。</p> <p>(イ)担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">建物・構築物</td> <td style="text-align: right;">1,275,313千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土地</td> <td style="text-align: right;">1,699,147</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">2,456</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">受取手形</td> <td style="text-align: right;">626,952</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">投資有価証券</td> <td style="text-align: right;">192,833</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,796,702</td> </tr> </table> <p>(ロ)上記に対応する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">350,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">長期借入金</td> <td style="text-align: right;">882,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">(内1年以内返済分 882,000)</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,232,000</td> </tr> </table> <p>4 当社は運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行9行と当座貸越契約を締結しております。</p> <p>当事業年度末における当座貸越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">当座貸越極度額の総額</td> <td style="text-align: right;">1,900,000千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">350,000</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">差引額</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">1,550,000</td> </tr> </table> | 受取手形および完成工事未収入金 | 203,325千円 | 支払手形および工事未払金 | 126,259千円 | 建物・構築物 | 1,275,313千円 | 土地 | 1,699,147 | 機械及び装置 | 2,456 | 受取手形 | 626,952 | 投資有価証券 | 192,833 | 計 | 3,796,702 | 短期借入金 | 350,000千円 | 長期借入金 | 882,000 | (内1年以内返済分 882,000) | | 計 | 1,232,000 | 当座貸越極度額の総額 | 1,900,000千円 | 借入実行残高 | 350,000 | 差引額 | 1,550,000 |
| 建物・構築物 | 1,326,274千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土地 | 1,716,234 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 機械及び装置 | 3,093 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 受取手形 | 702,369 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 投資有価証券 | 196,893 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 完成工事未収入金 | 2,129,318 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 6,074,183 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 短期借入金 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期借入金 | 1,162,000千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (内1年以内返済分 280,000) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 1,162,000 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額 | 2,600,000千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 借入実行残高 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 差引額 | 2,600,000 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 受取手形および完成工事未収入金 | 203,325千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払手形および工事未払金 | 126,259千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 建物・構築物 | 1,275,313千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土地 | 1,699,147 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 機械及び装置 | 2,456 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 受取手形 | 626,952 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 投資有価証券 | 192,833 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 3,796,702 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 短期借入金 | 350,000千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期借入金 | 882,000 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (内1年以内返済分 882,000) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 1,232,000 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当座貸越極度額の総額 | 1,900,000千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 借入実行残高 | 350,000 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 差引額 | 1,550,000 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 前事業年度 (平成21年3月31日) | 当事業年度 (平成22年3月31日) |
|--|--|
| <p>5 借入金のうち、シンジケートローン契約（残高合計1,162,000千円）には、財務制限条項が付されており、下記の条項に抵触した場合、契約上の全ての債務について期限の利益を失い、借入金元本および利息を支払うことになっております。</p> <p>財務制限条項の内容は、以下のとおりであります。</p> <p>経常利益が2期連続で赤字にならないこと。</p> <p>コミットメントラインに係る借入額が貸借対照表上の流動資産から流動負債を差し引いた額を下回っていること。ただし、ここでいう流動負債とは有利子負債を控除した金額を指す。</p> <p>半期毎に貸借対照表の「純資産の部」から「繰延ヘッジ損益」並びに「新株予約権」を控除した金額が平成18年3月末時点の「資本の部」の金額の75%を上回っていること。</p> | <p>5 借入金のうち、シンジケートローン契約（残高合計882,000千円）には、財務制限条項が付されており、下記の条項に抵触した場合、契約上の全ての債務について期限の利益を失い、借入金元本および利息を支払うことになっております。</p> <p>財務制限条項の内容は、以下のとおりであります。</p> <p>経常利益が2期連続で赤字にならないこと。</p> <p>半期毎に貸借対照表の「純資産の部」から「繰延ヘッジ損益」並びに「新株予約権」を控除した金額が平成18年3月末時点の「資本の部」の金額の75%を上回っていること。</p> |

(損益計算書関係)

| 前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) | 当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日) | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|----|--------|------|--|----|--------|------|--------------|----|-------|----|---|----|--------|----|--------|
| <p>1 一般管理費に含まれる研究開発費の総額は12,928千円であります。</p> | <p>1 一般管理費に含まれる研究開発費の総額は20,102千円であります。</p> <p>2 過年度損益修正損の内訳は、次のとおりであります。</p> <p>無形固定資産の過年度償却不足額 17,250千円</p> <p>3 減損損失 当社は、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">用途</th> <th rowspan="2">場所</th> <th colspan="2">減損損失</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>金額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">遊休資産</td> <td rowspan="4" style="text-align: center;">東京都 八王子市他</td> <td style="text-align: center;">建物</td> <td style="text-align: right;">9,715</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">備品</td> <td style="text-align: right;">6</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">土地</td> <td style="text-align: right;">22,195</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: right;">31,916</td> </tr> </tbody> </table> <p>(資産のグルーピングの方法) 当社は、原則として事業用資産については事業部門を基準としてグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。 (減損損失の認識に至った経緯) 当期において、遊休資産のうち時価が著しく下落した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。 (回収可能価額の算定方法) 当資産グループの回収可能価額は、正味売却価額により測定しており、主として固定資産税評価額により評価しております。</p> | 用途 | 場所 | 減損損失 | | 種類 | 金額(千円) | 遊休資産 | 東京都 八王子市他 | 建物 | 9,715 | 備品 | 6 | 土地 | 22,195 | 合計 | 31,916 |
| 用途 | 場所 | | | 減損損失 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 種類 | 金額(千円) | | | | | | | | | | | | | | |
| 遊休資産 | 東京都 八王子市他 | 建物 | 9,715 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 備品 | 6 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 土地 | 22,195 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 合計 | 31,916 | | | | | | | | | | | | | | |

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

| 株式の種類 | 前事業年度末 | 増加 | 減少 | 当事業年度末 |
|---------|------------|----|----|------------|
| 普通株式(株) | 12,000,000 | | | 12,000,000 |

2 自己株式に関する事項

| 株式の種類 | 前事業年度末 | 増加 | 減少 | 当事業年度末 |
|---------|--------|-------|----|--------|
| 普通株式(株) | 20,076 | 2,198 | | 22,274 |

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 2,198 株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 配当の原資 | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|----------------|-------|-----------------|------------|------------|
| 平成21年6月26日 定時株主総会 | 普通株式 | 35,933 | 利益剰余金 | 3.0 | 平成21年3月31日 | 平成21年6月29日 |

当事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

| 株式の種類 | 前事業年度末 | 増加 | 減少 | 当事業年度末 |
|---------|------------|----|----|------------|
| 普通株式(株) | 12,000,000 | | | 12,000,000 |

2 自己株式に関する事項

| 株式の種類 | 前事業年度末 | 増加 | 減少 | 当事業年度末 |
|---------|--------|-------|----|--------|
| 普通株式(株) | 22,274 | 1,791 | | 24,065 |

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次の通りであります。

単元未満株式の買取りによる増加 1,791株

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 平成21年6月26日 定時株主総会 | 普通株式 | 35,933 | 3.0 | 平成21年3月31日 | 平成21年6月29日 |

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 配当の原資 | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|----------------------|-------|----------------|-------|-----------------|------------|------------|
| 平成22年6月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 35,927 | 利益剰余金 | 3.0 | 平成22年3月31日 | 平成22年6月30日 |

(キャッシュ・フロー計算書関係)

| 前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) |
|---|---|
| 1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲 記されている科目の金額との関係 (平成21年3月31日) | 1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲 記されている科目の金額との関係 (平成22年3月31日) |
| 現金預金勘定 1,985,597千円 | 現金預金勘定 1,224,469千円 |
| 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 200,000 | 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 100,000 |
| 現金及び現金同等物 1,785,597 | 現金及び現金同等物 1,124,469 |

(リース取引関係)

| 前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|----------------|----------------|-------------|-------|-------------|-------------|----------|---------|---------|--------|--------|----|---------|--------|--------|------|----------|-----|-------|---|--------|--------|----------|----------|--------|--|--|-------------|----------------|-------------|---------|--------------|--------------|-------------|----|--------|--------|-------|------|---------|-----|-------|---|-------|--------|----------|----------|--------|
| <p>1 ファイナンス・リース取引 所有権移転外ファイナンス・リース取引 (1) リース資産の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産 主として、端末等O A 機器(工具器具・備品)であります。 ・無形固定資産 主として、生産管理用ソフトウェアであります。 <p>(2) リース資産の減価償却の方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> <p>2 リース取引開始日が平成20年 3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引について、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っております。</p> <p>リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">取得価額 相当額</th> <th style="text-align: center;">減価償却累 計額相当額</th> <th style="text-align: center;">期末残高 相当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>車両運搬具</td> <td style="text-align: right;">千円 4,392</td> <td style="text-align: right;">千円 4,336</td> <td style="text-align: right;">千円 55</td> </tr> <tr> <td>工具器具・備品</td> <td style="text-align: right;">105,453</td> <td style="text-align: right;">83,778</td> <td style="text-align: right;">21,674</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">109,845</td> <td style="text-align: right;">88,115</td> <td style="text-align: right;">21,730</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">1年以内</td> <td style="text-align: right;">17,448千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">4,282</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">21,730</td> </tr> </table> <p>(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>支払リース料及び減価償却費相当額</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">27,107千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">27,107</td> </tr> </table> <p>減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> | | 取得価額 相当額 | 減価償却累 計額相当額 | 期末残高 相当額 | 車両運搬具 | 千円 4,392 | 千円 4,336 | 千円 55 | 工具器具・備品 | 105,453 | 83,778 | 21,674 | 合計 | 109,845 | 88,115 | 21,730 | 1年以内 | 17,448千円 | 1年超 | 4,282 | 計 | 21,730 | 支払リース料 | 27,107千円 | 減価償却費相当額 | 27,107 | <p>1 ファイナンス・リース取引 所有権移転外ファイナンス・リース取引 (1) リース資産の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産 同左 ・無形固定資産 同左 <p>(2) リース資産の減価償却の方法 同左</p> <p>2 リース取引開始日が平成20年 3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引について、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っております。</p> <p>リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">取得価額 相当額</th> <th style="text-align: center;">減価償却累 計額相当額</th> <th style="text-align: center;">期末残高 相当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工具器具・備品</td> <td style="text-align: right;">千円 23,112</td> <td style="text-align: right;">千円 18,830</td> <td style="text-align: right;">千円 4,282</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">23,112</td> <td style="text-align: right;">18,830</td> <td style="text-align: right;">4,282</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 同左</p> <p>未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">1年以内</td> <td style="text-align: right;">2,399千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">1,882</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">4,282</td> </tr> </table> <p>(注) 同左</p> <p>支払リース料及び減価償却費相当額</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">17,448千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">17,448</td> </tr> </table> <p>減価償却費相当額の算定方法 同左</p> | | 取得価額 相当額 | 減価償却累 計額相当額 | 期末残高 相当額 | 工具器具・備品 | 千円 23,112 | 千円 18,830 | 千円 4,282 | 合計 | 23,112 | 18,830 | 4,282 | 1年以内 | 2,399千円 | 1年超 | 1,882 | 計 | 4,282 | 支払リース料 | 17,448千円 | 減価償却費相当額 | 17,448 |
| | 取得価額 相当額 | 減価償却累 計額相当額 | 期末残高 相当額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 車両運搬具 | 千円 4,392 | 千円 4,336 | 千円 55 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工具器具・備品 | 105,453 | 83,778 | 21,674 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 109,845 | 88,115 | 21,730 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1年以内 | 17,448千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1年超 | 4,282 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 21,730 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払リース料 | 27,107千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 減価償却費相当額 | 27,107 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 取得価額 相当額 | 減価償却累 計額相当額 | 期末残高 相当額 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工具器具・備品 | 千円 23,112 | 千円 18,830 | 千円 4,282 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 23,112 | 18,830 | 4,282 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1年以内 | 2,399千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1年超 | 1,882 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 計 | 4,282 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払リース料 | 17,448千円 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 減価償却費相当額 | 17,448 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

次△

(金融商品関係)

当事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

(追加情報)

当事業年度より「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)および「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

1.金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については預金等を中心に行い、また、資金調達については主に銀行借入による方針であります。

(2) 金融商品の内容およびそのリスク

営業債権である受取手形および完成工事未収入金等は、顧客の信用リスクに晒されています。また、投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形および工事未払金等は1年以内の支払期日であります。借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資資金に係る資金調達であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されておりますが、このうち長期のものには、支払金利の変動リスクを回避し支払利息の固定化を図るために、個別契約ごとにデリバティブ取引(金利スワップ取引)をヘッジ手段として利用しております。ヘッジの有効性の評価方法については、金利スワップの特例処理の要件を満たしているためその判定をもって有効性の評価を省略しております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、営業債権について各店の営業部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引先ごとに期日および残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

市場リスク(金利や市場価格の変動リスク)の管理

当社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップに限定して利用しております。また投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、月次毎に回収計画について作成・更新し、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価格のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価格が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「2.金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に関する市場リスクを示すものではありません。

(5) 信用リスクの集中

当事業年度の決算日現在における営業債権のうち14%が特定の大口顧客に対するものであります。

2.金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次の通りです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは次表には含まれておりません。

(単位：千円)

| | 貸借対照表計上額 | 時価 | 差額 |
|------------------|-----------|-----------|--------|
| (1) 現金預金 | 1,224,469 | 1,224,469 | |
| (2) 受取手形 | 942,203 | | |
| 貸倒引当金 | 10,360 | | |
| | 931,843 | 931,843 | |
| (3) 完成工事未収入金 | 4,906,192 | | |
| 貸倒引当金 | 53,970 | | |
| | 4,852,222 | 4,852,222 | |
| (4) 立替金 | 379,260 | | |
| 貸倒引当金 | 4,170 | | |
| | 375,090 | 374,726 | 364 |
| (5) 投資有価証券 | 193,576 | 193,576 | |
| (6) 会員権 | 156,414 | | |
| 貸倒引当金 | 42,943 | | |
| | 113,471 | 90,160 | 23,311 |
| (7) 破産更生債権等 | 355,693 | | |
| 貸倒引当金 | 355,693 | | |
| | | | |
| 資産計 | 7,690,674 | 7,666,999 | 23,675 |
| (1) 支払手形 | 2,078,085 | 2,078,085 | |
| (2) 工事未払金 | 2,821,477 | 2,821,477 | |
| (3) 短期借入金 | | | |
| 短期借入金 | 350,000 | 350,000 | |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 882,000 | 882,000 | |
| (4) 預り金 | 451,031 | 451,031 | |
| (5) リース債務 | 85,851 | 82,850 | 3,001 |
| 負債計 | 6,668,446 | 6,665,444 | 3,001 |
| デリバティブ取引 | | | |
| ヘッジ会計が適用されていないもの | | | |
| ヘッジ会計が適用されているもの | | | |
| デリバティブ取引計 | | | |

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券およびデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金預金、(2) 受取手形、ならびに(3)完成工事未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 立替金

立替金のうち、JV工事立替金は工期ごとに分類し、その将来キャッシュ・フローを回収期日までの期間および信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しております。また、その他の立替金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

(6) 会員権

専門業者の資料より売買価額を算定し、社内基準により個別に時価を評価し、当該価額をもって時価としています。

(7) 破産更生債権等

破産更生債権債権等については、担保および保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は決算日における貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似しており、当該価額をもって時価としております。

負債

(1) 支払手形、(2) 工事未払金、ならびに(3)短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。また、1年以内返済予定長期借入金の一部には金利スワップの特例処理の対象とされているものがあります。

(4) 預り金

JV工事預り金等は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) リース債務

これらの時価については、新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品
(単位：千円)

| 区分 | 貸借対照表計上額 |
|------------|----------|
| 非上場株式(*1) | 40,444 |
| 関係会社株式(*2) | 30,000 |
| 組合等出資金(*3) | 5,934 |

- (*1) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、「投資有価証券」には含めておりません。
- (*2) 関係会社株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるものであるため、時価開示の対象とはしておりません。
- (*3) 組合等出資金のうち、組合財産が非上場株式など時価が把握することが極めて困難と認められるもので構成されているものについては、時価開示の対象とはしておりません。

(注3) 金銭債権の決算日後の償還予定額

(単位：千円)

| | 1年以内 | 1年超 5年以内 | 5年超 10年以内 | 10年超 |
|----------|-----------|-------------|--------------|------|
| 現金預金 | 1,224,469 | | | |
| 受取手形 | 942,203 | | | |
| 完成工事未収入金 | 4,906,192 | | | |
| 立替金 | 278,321 | 100,939 | | |
| 合計 | 7,351,187 | 100,939 | | |

- (注4) 長期借入金、リース債務およびその他の有利子負債の決算日後の返済予定額については、附属明細表「借入金等明細表」を参照ください。

[前へ](#) [次へ](#)

(有価証券関係)

前事業年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

1 子会社株式で時価のあるもの(平成21年3月31日現在)

該当事項はありません。

2 その他有価証券で時価のあるもの(平成21年3月31日現在)

| | 取得原価 (千円) | 貸借対照表計上額 (千円) | 差額 (千円) |
|------------------------------------|--------------|------------------|------------|
| (1) 貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの 株式 | 139,868 | 181,105 | 41,236 |
| (2) 貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの 株式 | 17,551 | 16,428 | 1,122 |
| 合計 | 157,420 | 197,533 | 40,113 |

3 当事業年度中に売却したその他有価証券(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

売却損益の合計額の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

4 時価のない有価証券の内容及び貸借対照表計上額

- (1) 子会社株式 30,000千円
- (2) その他有価証券
非上場株式 52,644千円

当事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1 子会社株式(平成22年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額 30,000千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

2 その他有価証券(平成22年3月31日)

| | 貸借対照表計上額 (千円) | 取得原価 (千円) | 差額 (千円) |
|------------------------------------|------------------|--------------|------------|
| (1) 貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの 株式 | 110,449 | 57,100 | 53,349 |
| (2) 貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの 株式 | 83,127 | 100,387 | 17,260 |
| 合計 | 193,576 | 157,488 | 36,088 |

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額 40,444千円)については市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3 当事業年度中に売却したその他有価証券(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

該当事項はありません。

4 減損処理を行った有価証券

有価証券について12,199千円減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1 取引の状況に関する事項

| <p>前事業年度 (自 平成20年 4 月 1 日 至 平成21年 3 月31日)</p> | <p>当事業年度 (自 平成21年 4 月 1 日 至 平成22年 3 月31日)</p> |
|---|---|
| <p>(1) 取引の内容および利用目的等 当社は、変動金利の借入金調達を通常3年から8年の固定金利の資金調達に換えることにより借入金金利を安定化させるため、金利スワップ取引をおこなっております。 なお、デリバティブ取引を利用してヘッジ会計をおこなっております。 ヘッジ手段とヘッジ対象 ・ヘッジ手段 金利スワップ取引 ・ヘッジ対象 長期借入金の変動金利 ヘッジ方針 長期借入による資金調達において、変動金利を固定金利に換える金利スワップに限定しております。 ヘッジ有効性評価の方法 事前の有効性評価として、取引開始時に特例処理の要件を満たす金利スワップ取引であるか評価しております。</p> <p>(2) 取引に対する取組方針 デリバティブ取引は、将来の金利の変動によるリスク回避を目的とした、金利スワップに限定しております。</p> <p>(3) 取引に係るリスクの内容 金利スワップ取引については、市場金利の変動による範囲内でのリスクを有しております。取引の契約先は信用度の高い国内金融機関であるため、相手方の契約不履行による信用リスクは僅少であると認識しております。</p> <p>(4) 取引に係るリスク管理体制 金利スワップ取引については、取締役会で承認を受けた資金調達計画の借入金に対して、企画経理部が実行および管理をおこなっております。</p> | <p>(1) 取引の内容および利用目的等 同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p> <p>同左</p> <p>(2) 取引に対する取組方針 同左</p> <p>(3) 取引に係るリスクの内容 同左</p> <p>(4) 取引に係るリスク管理体制 同左</p> |

2 取引の時価等に関する事項

前事業年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

デリバティブ取引は、将来の金利の変動によるリスク回避を目的とした金利スワップに限定しており、ヘッジ会計が適用されておりますので、記載を省略しております。

当事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当するものはありません。

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

(単位：千円)

| ヘッジ会計の方法 | デリバティブ取引の種類等 | 主なヘッジ対象 | 当事業年度(平成22年3月31日) | | |
|-------------|-----------------------|----------|-------------------|-----------|------|
| | | | 契約金額等 | 契約額のうち1年超 | 時価 |
| 金利スワップの特例処理 | 金利スワップ取引 支払固定・受取変動 | 1年内長期借入金 | 760,000 | | (*1) |

(*1) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該1年内長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

前事業年度(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、適格退職年金制度および退職一時金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

その他、当社は、複数事業主により設立された総合設立型の「愛知県管工事業厚生年金基金」に加入しており、当社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、当該年金制度への拠出額を退職給付費用としております。

なお、当該企業年金制度全体の直近の積立状況及び制度全体の拠出等に占める当社の割合は次のとおりであります。

制度全体の積立状況に関する事項(平成20年3月31日現在)

(単位：千円)

| | |
|----------------|------------|
| 年金資産の額 | 12,816,374 |
| 年金財政計算上の給付債務の額 | 14,180,040 |
| 差引額 | 1,363,666 |

制度全体に占める当社の掛金拠出割合(自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日)

8.67%

2 退職給付債務に関する事項(平成21年3月31日現在)

| | (単位：千円) |
|--------------------|---------|
| イ 退職給付債務 | 873,224 |
| ロ 年金資産 | 64,829 |
| ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ) | 808,395 |
| ニ 未認識数理計算上の差異 | 5,637 |
| ホ 未認識過去勤務債務(債務の減額) | 7,813 |
| ヘ 退職給付引当金(ハ+ニ+ホ) | 821,846 |

3 退職給付費用に関する事項(自平成20年4月1日至平成21年3月31日)

| | (単位：千円) |
|-----------------------|---------|
| イ 勤務費用 | 39,374 |
| ロ 利息費用 | 18,658 |
| ハ 期待運用収益 | 414 |
| ニ 数理計算上の差異の費用処理額 | 12,239 |
| ホ 過去勤務債務の費用処理額 | 3,456 |
| ヘ 厚生年金基金への拠出額(注) | 18,036 |
| ト 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ+ヘ) | 84,437 |

(注) 総合設立型の厚生年金基金への拠出額を記載しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

| | |
|------------------|---|
| イ 退職給付見込額の期間配分方法 | 期間定額基準 |
| ロ 割引率 | 2.0% |
| ハ 期待運用収益率 | 0.5% |
| ニ 数理計算上の差異の処理年数 | 5年(各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌期から費用処理することとしております。) |
| ホ 過去勤務債務の額の処理年数 | 5年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用処理しております。) |

当事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、適格退職年金制度および退職一時金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

その他、当社は、複数事業主により設立された総合設立型の「愛知県管工事業厚生年金基金」に加入しており、当社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができないため、当該年金制度への拠出額を退職給付費用としております。

なお、当該企業年金制度全体の直近の積立状況及び制度全体の拠出等に占める当社の割合は次のとおりであります。

| 制度全体の積立状況に関する事項(平成21年3月31日現在) | |
|---|------------|
| | (単位：千円) |
| 年金資産の額 | 10,523,776 |
| 年金財政計算上の給付債務の額 | 14,572,948 |
| 差引額 | 4,049,171 |
| 制度全体に占める当社の掛金拠出割合(自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) | |
| | 8.15% |

2 退職給付債務に関する事項(平成22年3月31日現在)

| | (単位：千円) |
|----------------------|---------|
| イ 退職給付債務 | 857,568 |
| ロ 年金資産 | 48,285 |
| ハ 未積立退職給付債務(イ + ロ) | 809,283 |
| ニ 未認識数理計算上の差異 | 9,156 |
| ホ 未認識過去勤務債務(債務の減額) | 3,906 |
| ヘ 退職給付引当金(ハ + ニ + ホ) | 804,034 |

3 退職給付費用に関する事項(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

| | (単位：千円) |
|---------------------------------|---------|
| イ 勤務費用 | 37,441 |
| ロ 利息費用 | 17,495 |
| ハ 期待運用収益 | 324 |
| ニ 数理計算上の差異の費用処理額 | 1,739 |
| ホ 過去勤務債務の費用処理額 | 3,906 |
| ヘ 厚生年金基金への拠出額(注) | 17,318 |
| ト 退職給付費用(イ + ロ + ハ + ニ + ホ + ヘ) | 69,762 |

(注) 総合設立型の厚生年金基金への拠出額を記載しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

| | |
|------------------|--|
| イ 退職給付見込額の期間配分方法 | 期間定額基準 |
| ロ 割引率 | 2.0% |
| ハ 期待運用収益率 | 0.5% |
| ニ 数理計算上の差異の処理年数 | 5年(各期の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌期から費用処理することとしております。) |
| ホ 過去勤務債務の額の処理年数 | 5年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用処理しております。) |

(ストック・オプション等関係)

| 前事業年度 (自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日) |
|--|--|
| 該当事項はありません。 | 該当事項はありません。 |

(税効果会計関係)

| 前事業年度 (平成21年3月31日) | 当事業年度 (平成22年3月31日) |
|---|---|
| 1 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 (繰延税金資産) | 1 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳 (繰延税金資産) |
| 有価証券評価損 7,054千円 | 有価証券評価損 12,298千円 |
| 退職給付引当金 332,847 | 退職給付引当金 325,633 |
| 工事損失引当金 49,927 | 工事損失引当金 67,786 |
| 減損損失 13,725 | 減損損失 26,651 |
| ゴルフ会員権評価損 40,436 | ゴルフ会員権評価損 40,922 |
| 貸倒引当金 123,552 | 貸倒引当金 148,127 |
| 繰越欠損金 1,732,446 | 繰越欠損金 1,338,820 |
| その他 145,040 | その他 140,726 |
| 繰延税金資産小計 2,445,030 | 繰延税金資産小計 2,100,967 |
| 評価性引当額 2,445,030 | 評価性引当額 2,100,967 |
| 繰延税金資産合計 | 繰延税金資産合計 |
| (繰延税金負債) | (繰延税金負債) |
| その他有価証券評価差額金 12,805 | その他有価証券評価差額金 11,123 |
| 繰延税金負債合計 12,805 | 繰延税金負債合計 11,123 |
| 繰延税金負債の純額 12,805 | 繰延税金負債の純額 11,123 |
| 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳 | 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳 |
| 法定実効税率 40.5% | 法定実効税率 40.5% |
| (調整) | (調整) |
| 永久に損金に算入されない項目 7.2 | 永久に損金に算入されない項目 7.8 |
| 永久に益金に算入されない項目 0.6 | 永久に益金に算入されない項目 0.2 |
| 住民税均等割等 8.8 | 住民税均等割等 7.8 |
| 過年度法人税等 0.3 | 評価性引当金の増減 104.1 |
| 評価性引当金の増減 46.3 | 繰越欠損金の期限切れ 56.2 |
| その他 0.6 | その他 0.2 |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 9.0% | 税効果会計適用後の法人税等の負担率 8.2% |

(賃貸等不動産関係)

| 前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) | 当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日) |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| | 該当事項はありません。 |

(追加情報)

当事業年度より、「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第20号 平成20年11月28日)及び「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第23号 平成20年11月28日)を適用しております。

(持分法損益等)

| 前事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) | 当事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日) |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 関連会社がないため該当事項はありません。 | 関連会社がないため該当事項はありません。 |

【関連当事者情報】

前事業年度(自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日)

(追加情報)

当事業年度より、「関連当事者の開示に関する会計基準」(企業会計基準第11号 平成18年10月17日)および「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第13号 平成18年10月17日)を適用しております。

1 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

| 種類 | 会社等の名称 又は氏名 | 所在地 | 資本金又は 出資金 (千円) | 事業の内容 又は職業 | 議決権等 の所有 (被所有) 割合(%) | 関連当事者 との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (千円) | 科目 | 期末残高 (千円) |
|-----|----------------|-----------|----------------------|---------------|-------------------------------|----------------------|-------------|--------------|--------------|--------------|
| 親会社 | 株式会社 関電工 | 東京都 港区 | 10,264,000 | 建設業 | (被所有) 直接 50.10 | 設備工事の 受注 役員の兼任 | 設備工事の 請負 | 1,007 | 受取手形 | 7,700 |
| | | | | | | | | | 完成工事 未収入金 | 598 |
| | | | | | | | | | 未成工事 受入金 | 43,400 |

(注) 1 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

設備工事の受注価額および発注価額、その他の取引条件は、見積書に基づき一般の取引と同様の方法により決定しております。

(2) 財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等

| 種類 | 会社等の名称 又は氏名 | 所在地 | 資本金又は 出資金 (千円) | 事業の内容 又は職業 | 議決権等 の所有 (被所有) 割合(%) | 関連当事者 との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (千円) | 科目 | 期末残高 (千円) |
|-----|------------------|------------|----------------------|---------------|-------------------------------|---------------------|---------------------|--------------|-------|--------------|
| 子会社 | カワセツサー ビス株式会社 | 名古屋市中 区 | 30,000 | メンテナ ンス業 | (所有) 直接100 | メンテナ ンス業務の委 託 | メンテナ ンス業務の委 託 | 245,879 | 工事未払金 | 18,131 |
| | | | | | | | | | 未払費用 | 973 |

(注) 1 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

メンテナンス業務の発注価額、その他の取引条件は、見積書に基づき一般の取引と同様の方法により決定しております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

株式会社関電工(東京証券取引所に上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当ありません。

当事業年度(自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)

1 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

| 種類 | 会社等の名称 又は氏名 | 所在地 | 資本金又は 出資金 (千円) | 事業の内容 又は職業 | 議決権等 の所有 (被所有) 割合(%) | 関連当事者 との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (千円) | 科目 | 期末残高 (千円) |
|-----|----------------|-----------|----------------------|---------------|-------------------------------|-----------------------|-------------|--------------|--------------|--------------|
| 親会社 | 株式会社 関電工 | 東京都 港区 | 10,264,000 | 建設業 | (被所有) 直接 50.29 | 設備工事の 受発注 役員の兼任 | 設備工事の 請負 | 662,719 | 受取手形 | 13,000 |
| | | | | | | | | | 完成工事 未収入金 | 190,325 |
| | | | | | | | | | 未成工事 受入金 | 86,090 |
| | | | | | | | 設備業務の 委託 | 258,691 | 支払手形 | 650 |
| | | | | | | | | | 工事未払金 | 66,470 |

(注) 1 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

設備工事の受注価額および発注価額、その他の取引条件は、見積書に基づき一般の取引と同様の方法により決定しております。

(2) 財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等

| 種類 | 会社等の名称 又は氏名 | 所在地 | 資本金又は 出資金 (千円) | 事業の内容 又は職業 | 議決権等 の所有 (被所有) 割合(%) | 関連当事者 との関係 | 取引の内容 | 取引金額 (千円) | 科目 | 期末残高 (千円) |
|-----|------------------|------------|----------------------|---------------|-------------------------------|---------------------|---------------------|--------------|-------|--------------|
| 子会社 | カワセツサー ビス株式会社 | 名古屋市 中区 | 30,000 | メンテナ ンス業 | (所有) 直接100 | メンテナ ンス業務の委 託 | メンテナ ンス業務の委 託 | 251,955 | 立替金 | 10,002 |
| | | | | | | | | | 工事未払金 | 59,139 |
| | | | | | | | | | 未払費用 | 551 |

(注) 1 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

メンテナンス業務の発注価額、その他の取引条件は、見積書に基づき一般の取引と同様の方法により決定しております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

株式会社関電工(東京証券取引所に上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当ありません。

(企業結合等関係)

| 前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) |
|---|---|
| 該当事項はありません。 | 該当事項はありません。 |

(1株当たり情報)

| 前事業年度 (自 平成20年 4月 1日 至 平成21年 3月31日) | 当事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日) |
|--|--|
| 1株当たり純資産額 235円52銭 | 1株当たり純資産額 257円68銭 |
| 1株当たり当期純利益 23円19銭 | 1株当たり当期純利益 25円34銭 |
| なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がありませんので記載しておりません。 | なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式がありませんので記載しておりません。 |
| 算定上の基礎 | 算定上の基礎 |
| 1 1株当たり純資産額 | 1 1株当たり純資産額 |
| 貸借対照表の純資産の部の合計額 2,821,017千円 | 貸借対照表の純資産の部の合計額 3,086,011千円 |
| 普通株式に係る純資産額 2,821,017千円 | 普通株式に係る純資産額 3,086,011千円 |
| 普通株式の発行済株式数 12,000,000株 | 普通株式の発行済株式数 12,000,000株 |
| 普通株式の自己株式数 22,274株 | 普通株式の自己株式数 24,065株 |
| 1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数 11,977,726株 | 1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数 11,975,935株 |
| 2 1株当たり当期純利益 | 2 1株当たり当期純利益 |
| 損益計算書上の当期純利益 277,761千円 | 損益計算書上の当期純利益 303,439千円 |
| 普通株式に係る当期純利益 277,761千円 | 普通株式に係る当期純利益 303,439千円 |
| 普通株主に帰属しない金額の主要な内訳 該当事項はありません。 | 普通株主に帰属しない金額の主要な内訳 該当事項はありません。 |
| 普通株式の期中平均株式数 11,978,725株 | 普通株式の期中平均株式数 11,976,429株 |

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

| 銘柄 | | 株式数(株) | 貸借対照表計上額(千円) | |
|--------|---------|----------------------|--------------|--------|
| 投資有価証券 | その他有価証券 | (株)大垣共立銀行 | 243,000 | 78,489 |
| | | 川崎重工業(株) | 140,000 | 36,120 |
| | | JFEホールディングス(株) | 8,700 | 32,755 |
| | | 中部国際空港(株) | 304 | 15,200 |
| | | (株)三菱UFJフィナンシャル・グループ | 21,750 | 10,657 |
| | | (株)グッドマン | 13,000 | 8,567 |
| | | (株)国際デザインセンター | 30 | 7,200 |
| | | 中部電力(株) | 2,461 | 5,751 |
| | | (株)キッツ | 10,000 | 5,450 |
| | | (株)みずほフィナンシャルグループ | 25,000 | 4,625 |
| | | その他(18銘柄) | 538,865 | 29,205 |
| 計 | | 1,003,110 | 234,020 | |

【有形固定資産等明細表】

| 資産の種類 | 前期末残高 (千円) | 当期増加額 (千円) | 当期減少額 (千円) | 当期末残高 (千円) | 当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額(千円) | 当期償却額 (千円) | 差引当期末 残高 (千円) |
|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----------------------------------|---------------|---------------------|
| 有形固定資産 | | | | | | | |
| 建物 | | | | 3,312,715 | 1,935,519 | 76,195 | 1,377,195 |
| 構築物 | | | | 51,552 | 43,577 | 1,090 | 7,974 |
| 機械及び装置 | | | | 31,330 | 28,873 | 637 | 2,456 |
| 車両運搬具 | | | | 126 | 126 | | |
| 工具器具・備品 | | | | 61,239 | 50,652 | 1,368 | 10,586 |
| 土地 | | | | 1,721,349 | | | 1,721,349 |
| リース資産 | | | | 37,894 | 6,112 | 4,739 | 31,781 |
| 有形固定資産計 | | | | 5,216,206 | 2,064,862 | 84,031 | 3,151,344 |
| 無形固定資産 | | | | | | | |
| 借地権 | | | | 30,000 | 18,250 | 1,000 | 11,750 |
| リース資産 | | | | 59,533 | 9,550 | 8,584 | 49,983 |
| 電話加入権 | | | | 18,035 | | | 18,035 |
| その他 無形固定資産 | | | | 6,590 | 4,380 | 952 | 2,210 |
| 無形固定資産計 | | | | 114,159 | 32,180 | 27,787 | 81,979 |
| 長期前払費用 | 4,197 | | 500 | 3,697 | | | 3,697 |

(注) 1 無形固定資産の金額は、資産の総額の1%以下であるため、「前期末残高」、「当期増加額」および「当期減少額」の記載を省略しております。

2 有形固定資産の当事業年度における増加額および減少額が、いずれも当事業年度末における有形固定資産の総額の5%以下であるため、「前期末残高」、「当期増加額」および「当期減少額」の記載を省略しております。

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

| 区分 | 前期末残高 (千円) | 当期末残高 (千円) | 平均利率 (%) | 返済期限 |
|-------------------------|---------------|---------------|-------------|---------------------|
| 短期借入金 | 100,000 | 350,000 | 0.039 | |
| 1年以内に返済予定の長期借入金 | 280,000 | 882,000 | 0.940 | |
| 1年以内に返済予定のリース債務 | 4,323 | 20,459 | | |
| 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。) | 882,000 | | | |
| リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。) | 14,839 | 65,392 | | 平成25年5月～ 平成27年2月 |
| その他有利子負債 | | | | |
| 合計 | 1,281,163 | 1,317,851 | | |

(注) 1 「平均利率」については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

なお、リース債務の「平均利率」については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

2 リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の貸借対照表日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

| 区分 | 1年超2年以内 (千円) | 2年超3年以内 (千円) | 3年超4年以内 (千円) | 4年超5年以内 (千円) |
|-------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| リース債務 | 20,459 | 20,459 | 18,003 | 6,469 |

【引当金明細表】

| 区分 | 前期末残高 (千円) | 当期増加額 (千円) | 当期減少額 (目的使用) (千円) | 当期減少額 (その他) (千円) | 当期末残高 (千円) |
|-----------|---------------|---------------|-------------------------|------------------------|---------------|
| 貸倒引当金 | 538,835 | 818 | 15,344 | 57,174 | 467,136 |
| 賞与引当金 | 197,522 | 139,027 | 197,522 | | 139,027 |
| 役員賞与引当金 | | 6,410 | | | 6,410 |
| 完成工事補償引当金 | 91,023 | 62,025 | 30,583 | 60,439 | 62,025 |
| 工事損失引当金 | 123,278 | 167,373 | 123,278 | | 167,373 |
| 環境対策引当金 | | 9,383 | | | 9,383 |

(注) 1 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、主として債権の回収による戻入額であります。

2 完成工事補償引当金の「当期減少額(その他)」欄の金額は、補修実績率の見直しに伴う洗い替えによる減少額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

イ 現金預金

| 区分 | 金額(千円) |
|------|-----------|
| 現金 | 1,913 |
| 預金 | |
| 当座預金 | 119,231 |
| 普通預金 | 1,003,324 |
| 定期預金 | 100,000 |
| 計 | 1,222,555 |
| 合計 | 1,224,469 |

ロ 受取手形

(a) 相手先別内訳

| 相手先 | 金額(千円) |
|----------------|---------|
| (株)大林組 | 236,376 |
| 金下建設(株) | 128,550 |
| 新日鉄エンジニアリング(株) | 128,255 |
| (株)ピーエス三菱 | 69,754 |
| 日立造船(株) | 52,298 |
| その他 | 326,968 |
| 計 | 942,203 |

(b) 決済月別内訳

| 決済月 | 金額(千円) |
|---------|---------|
| 平成22年4月 | 187,298 |
| 5月 | 183,700 |
| 6月 | 220,253 |
| 7月 | 151,916 |
| 8月 | 199,035 |
| 9月以降 | |
| 計 | 942,203 |

八 完成工事未収入金

(a) 相手先別内訳

| 相手先 | 金額(千円) |
|----------|-----------|
| 川崎重工業(株) | 832,519 |
| (株)大林組 | 415,501 |
| 大阪大学 | 405,011 |
| 首都高速道路公団 | 347,725 |
| 渋谷区 | 332,028 |
| その他 | 2,573,405 |
| 計 | 4,906,192 |

(b) 滞留状況

| 計上期別 | 金額(千円) |
|---------------|-----------|
| 平成22年3月期計上額 | 4,906,192 |
| 平成21年3月期以前計上額 | |
| 計 | 4,906,192 |

二 未成工事支出金

| 期首残高 (千円) | 当期支出額 (千円) | 完成工事原価への振替額 (千円) | 期末残高 (千円) |
|--------------|---------------|---------------------|--------------|
| 2,734,919 | 13,935,284 | 15,164,999 | 1,505,204 |

(注) 期末残高の内訳は次のとおりであります。

| | |
|-----|-----------|
| 材料費 | 342,344千円 |
| 外注費 | 795,979 |
| 経費 | 366,881 |
| 計 | 1,505,204 |

負債の部

イ 支払手形

(a) 相手先別内訳

| 相手先 | 金額(千円) |
|-------------|-----------|
| 朝日機器(株) | 254,391 |
| (株)オーテック | 83,803 |
| TOTOアクエア(株) | 71,993 |
| 日本管材センター(株) | 55,542 |
| 富士機材(株) | 52,976 |
| その他 | 1,559,378 |
| 計 | 2,078,085 |

(b) 決済月別内訳

| 決済月 | 金額(千円) |
|---------|-----------|
| 平成22年4月 | 432,327 |
| 5月 | 470,708 |
| 6月 | 514,102 |
| 7月 | 439,711 |
| 8月 | 221,235 |
| 9月以降 | |
| 計 | 2,078,085 |

ロ 工事未払金

| 相手先 | 金額(千円) |
|--------------|-----------|
| 大成設備(株) | 264,162 |
| (株)関電工 | 66,470 |
| 朝日機器(株) | 62,753 |
| 日本ドライケミカル(株) | 61,457 |
| TOTOアクエア(株) | 59,950 |
| その他 | 2,306,682 |
| 計 | 2,821,477 |

八 未成工事受入金

| 期首残高 (千円) | 当期受入額 (千円) | 完成工事高への振替額 (千円) | 期末残高 (千円) |
|--------------|---------------|--------------------|--------------|
| 1,775,795 | 7,428,932 | 7,904,415 | 1,300,312 |

(3) 【その他】

当事業年度における各四半期会計期間に係る売上高等

| | 第1四半期 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日) | 第2四半期 (自平成21年7月1日 至平成21年9月30日) | 第3四半期 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日) | 第4四半期 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日) |
|----------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--|--------------------------------------|
| 売上高 (千円) | 2,897,468 | 4,072,173 | 3,139,744 | 6,741,661 |
| 税引前四半期純利益金額又は税引前四半期純損失金額 (千円) | 45,952 | 129,413 | 7,521 | 162,776 |
| 四半期純利益金額又は四半期純損失金額 (千円) | 38,144 | 123,073 | 14,090 | 156,312 |
| 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額 (円) | 3.18 | 10.28 | 1.18 | 13.05 |

第6 【提出会社の株式事務の概要】

| | |
|------------|--|
| 事業年度 | 4月1日から3月31日まで |
| 定時株主総会 | 6月中 |
| 基準日 | 3月31日 |
| 剰余金の配当の基準日 | 9月30日、3月31日 |
| 1単元の株式数 | 1,000株 |
| 単元未満株式の買取り | |
| 取扱場所 | (特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店 |
| 株主名簿管理人 | (特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 |
| 取次所 | |
| 買取手数料 | 無料 |
| 公告掲載方法 | 当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむをえない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 http://www.kawasaki-sk.co.jp/kessan/index.html |
| 株主に対する特典 | 該当事項はありません。 |

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から本有価証券報告書提出日までの間において、東海財務局長に提出した金融商品取引法第25条第1項各号に掲げる書類は次のとおりであります。

| | | | |
|-----------------------------------|----------------|-------------------------------|-------------|
| (1) 有価証券報告書 及びその添付書類 並びに確認書 | 事業年度 (第82期) | 自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日 | 平成21年6月26日 |
| (2) 内部統制報告書 | 事業年度 (第82期) | 自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日 | 平成21年6月26日 |
| (3) 四半期報告書 及び確認書 | 第83期第1四半期 | 自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日 | 平成21年8月11日 |
| | 第83期第2四半期 | 自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日 | 平成21年11月13日 |
| | 第83期第3四半期 | 自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日 | 平成22年2月12日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成21年6月22日

川崎設備工業株式会社
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 黒 崎 寛

指定社員
業務執行社員 公認会計士 神 田 正 史

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている川崎設備工業株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの第82期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、川崎設備工業株式会社の平成21年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、川崎設備工業株式会社の平成21年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、川崎設備工業株式会社が平成21年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表及び内部統制報告書に添付する形で別途保管しております。
- 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年6月17日

川崎設備工業株式会社
取締役会 御中

あずさ監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 黒 崎 寛

指定社員
業務執行社員 公認会計士 神 田 正 史

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている川崎設備工業株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第83期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、川崎設備工業株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

重要な会計方針に記載されているとおり、会社は当事業年度より「工事契約に関する会計基準」及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」を適用している。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、川崎設備工業株式会社の平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、川崎設備工業株式会社が平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表及び内部統制報告書に添付する形で別途保管しております。
- 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。